



ア

ン

ゲ

リ

ア

「アンゲリア」というのは近代文化の故郷であるギリシャの言葉で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。この言葉の派生語として「アンゲロス」という言葉があり、中世には「天使（英語でエンジェル）」という意味に使われました。教養教育推進センターは岐阜大学の学生・教員・スタッフに対する「情報提供の場」としてこの機関誌を作りました。これが教養教育にかかわって学生・教員・スタッフとの良い関係を作る天使となってくれることを願いながら。

平成8年10月に教養部が廃止され、多くの議論を経て平成12年度には全教官出動方式による全学共通教育実施体制が発動しました。平成16年4月に教養教育推進センターが設置され、これまで全学共通教育の企画・運営・改善の中心的な役割を演じてきました。

教養教育推進センターでは、平成18年6月に教養教育の在り方、内容、教育方法などについて広報活動を早め、さらに教職員や学生の自由な意見交換が大切であるとの思いからニュースレター「アンゲリア」創刊号を発刊するに至りました。この間、19回発刊され、「講義担当者の熱い思い、学生の全学共通教育に寄せる期待、センター関係者のメッセージなどが紙面を飾ってきました。今回、第20号を発刊するのを記念して1冊のアンゲリアとしてお届けし、スタート時からのアンゲリアが刻んだ歩みをご覧いただきたく思います。今後も全学共通教育の改善を目指してタスキが繋がれていくことを祈っています。（広報・FD専門委員会）

目次

No.	発行年月		主な掲載内容	頁
	年	月		
-	-	-	教養教育実施体制のあゆみ・歴代センター役員	2
1	2006年 (H18)	6月	ニュースレターの発刊にあたって・センターからの案内・授業訪問「フィールド科学概論Ⅰ」・学生からの声	3
2	2006年 (H18)	9月	センター員からのメッセージ・授業訪問「音楽史Ⅱ」・英語教材利用の案内	6
3	2007年 (H19)	1月	地域科学部における＜教養教育の担当コマ数＞・外部評価・授業訪問「水上スポーツで学ぶ」	9
4	2007年 (H19)	3月	応用生物科学部が担当する授業紹介・センター員の思い・授業訪問「空間認識力訓練技術」	12
5	2007年 (H19)	6月	中村センター長からのメッセージ・教育学部と教養教育・授業訪問「合意形成の理念と技術」・「ドイツ語Ⅰ（抽出クラス）」	15
6	2007年 (H19)	10月	授業訪問「言語学Ⅰ」・授業評価アンケート要望と回答・学生相談員の声	18
7	2008年 (H20)	3月	授業訪問「生き物よもやま話」・英語相談室	20
8	2008年 (H20)	5月	意見箱に寄せられた学生の声・学習支援室	22
9	2008年 (H20)	9月	授業訪問「美術史」・学生の声・理科実験講座	24
10	2009年 (H21)	3月	学生と教員が語る英語教育への思い	26
11	2009年 (H21)	4月	在学生／卒業生が語る全学共通教育・正しい日本語	28
12	2009年 (H21)	8月	授業訪問「メディア論Ⅰ」・学生からのメッセージ	30
13	2009年 (H21)	冬季	授業訪問「社会の中の看護」・AIMS Tips	32
14	2010年 (H22)	3月	古田センター長からのメッセージ・AIMS Tips	34
15	2010年 (H22)	6月	福士センター長からのメッセージ・AIMS Tips	36
16	2010年 (H22)	10月	懇談会に出席した学生の声	38
17	2011年 (H23)	3月	特任准教授(英語)からのメッセージ	40
18	2011年 (H23)	6月	学生相談員の声	42
19	2011年 (H23)	10月	基盤的能力・専門的能力	44

岐阜大学教養教育・全学共通教育実施体制のあゆみ

昭和40年 4月 教養部設置（1965年）
 平成 8年10月 教養部廃止
 平成 9年 4月 全学共通教育企画運営委員会設置
 平成12年 4月 全教官出動方式による全学共通教育実施体制
 平成16年 4月 教養教育推進センター設置

岐阜大学教養教育推進センター歴代役員一覧

センター長

所属部局等	氏名	任期
理事(教学担当)	佐々木嘉三	平成16～18年度
応用生物科学部	中村征夫	平成19年度
理事(教学・附属学校担当)	古田善伯	平成20～21年度
応用生物科学部	福士秀人	平成22～23年度

授業編成専門委員会委員長（平成16～18年度は授業編成部門会委員長）

所属部局等	氏名	任期
地域科学部	竹内章郎	平成16～19年度
教養教育推進センター	小澤克彦	平成20～23年度

点検・評価専門委員会委員長

（平成16～17年度は点検・評価部門会委員長、平成18年度はワーキンググループ）

所属部局等	氏名	任期
工学部	若松謙一	平成16年度
工学部	田中光宏	平成17年度
教育学部	小澤克彦	平成18年度
教養教育推進センター	小澤克彦	平成19～23年度

研究・開発部門会委員長

所属部局等	氏名	任期
応用生物科学部	柵木利昭	平成16年度
応用生物科学部	戸松 修	平成17年度

広報・FD専門委員会委員長（平成18年度はワーキンググループ）

所属部局等	氏名	任期
教育学部	小澤克彦	平成18年度
教養教育推進センター	小澤克彦	平成19年度
地域科学部	中川一雄	平成20～21年度
工学部	竹内豊英	平成22～23年度

ニュース・レターの発刊にあたって



教養教育推進センター長 佐々木高三

教養教育の在り方・教育内容・方法などについて広報活動を早め、さらに教職員や学生が自由に意見交換することが大切であるという考え方から、ニュース・レター「アングリア」の発刊を大へん嬉しく思っている。21世紀「知識基盤社会」に在って、大学教育でどのような専門的な学問体系を学ぶにしても「倫理観」や「広い見識」に裏打ちされた「教養」の必要性が求められていることは確かでありましょう。われわれ教員がその認識の下で自己研鑽しながら授業を担当し、学生と接触しているかは、自分の教員生活を振り返っても十分だったとは言えない。大いに意見交換しながらこれからの教育の在り方を考えて行きましょう。大学はその学生達に高等教育を行う「組織」ではありますが、人が人を育てているという認識を全教職員が意識して行かねばならないと思っています。

全共履修ガイダンス アンケート結果について

先に学生の皆さんに「全学共通教育の履修ガイダンス」にかかわってのアンケートをとらせていただきましたが、結果的に20パーセントを超える学生諸君が何らかの問題を感じてしまったようです。実際、履修の窓口で間違ったりまごついていた学生もかなりいたようでした。

他方、別途行った「クラスなどでの直接の聴き取り」では非常に厳しい意見が続出し、「分からなくては大変だから自分で努力した」ので何とかあったけれど、ガイダンス自体はただの「きっかけ」となっただけで、そこで理解することはほとんどできなかった、という意見でほぼ一致していました。

これでは困りますので、教養教育推進センターでは、来年度は次ぎのようなやり方により考えております。皆さんもアイデアがあったら、ぜひお寄せ下さい。

1 全学共通教育と専門教育のガイダンスは別に分けます

これまでは「学部の教務担当教員」が「専門授業と並べて」全共の履修の仕方を説明していましたが、「混乱する」とか「教員は教養授業については良く分かっていないみたいだ」という声が多いため、来年度以降は「専門は専門」「教養は教養」とガイダンスを分けて、教養の授業については「教養教育推進センター」が行うか、ないし説明担当教員に事前に十分に説明内容を指示しておくこととします。

2 具体例をあげて分かりやすく説明します

「具体的に話して欲しい」という要望が多いため、できるだけ「具体例」で説明したいと思います。「履修案内」においても同様に「図解やチャート」あるいは「履修モデル」などを挙げて説明するように改良します。

3 必要事項にかぎって説明します

「後で振り返っても余計な話が多すぎる」という声もあるので、履修に関して「絶対に必要不可欠の事柄」に絞って説明するようにしたいと思います。なお、「学生としてのあり方とか大学・学部の内容や考え方、大学の授業の性格」とかがガイダンスの時に触れられていたこともあったようですが、こうしたことについては別途時間をとるように大学当局に進言することとします。

4 「履修案内」を作り直します

「履修案内」が大き過ぎる、読みにくい、要領が悪い、考え方だの解説だのは必要ない、履修案内は履修の仕方だけを簡潔に記しておくべき」といった声に応じて「見やすく分かり易い履修案内」にしたいと思い、案の作成に入りました。

教養教育 授業訪問シリーズ No.1

フィールド科学概論Ⅰ ーご飯ができるまでー

大場伸也教授 ほか

この授業では、副題のとおり、米の種子まきから始まり、田植え、収穫、ご飯の炊き方までを実習を通して学びます。下の写真は、5月16日に行った田植えの実習風景です。当日は、あいにくの雨でしたが雨にも負けず田植えを体験していました。大部分の学生は、田へ入るのも初めてのようで、「にゆるにゆるして気持ち悪い」とか「こんなイヤだ」とか言っていました。慣れるに従って作業も進み、なんとか田植えを終りました。収穫が楽しみです。

(慣れない作業で腰も痛かったことでしょう。昨今の田植は機械化されていますが、一昔前までは、農家に出て手植えをしたものでした。昔の農家の人の苦労を味わったのは、貴重な経験になったことと思います。)



「教養」とは何か？

藤村喜章
地域科学部地域文化講座4年生

「教養」とは何か。難しい問いである。ただ、どれだけ素晴らしい教養の理念に従った授業やカリキュラムがなされようと、学生側が主体的に何かを学び、考え、表現しようという気持ちがないならば、教養教育の理念は達成されないように思う。抽象的ではあるが、この主体的に学び、考え、表現することに「教養」の一部が含まれているのではないかと。

そのような前提にたつて次の二点を指摘したい。まず、教養教育とは単に「知識」を教えてもらったり、増やすための授業を意味しない。「教養」とは自ら学び、考えようとする中にもある（「専門」か「教養」かという二者択一の議論の多くは「教養」を「知識」としてしか捉えていないように思う）。

次に、授業は先生だけでなく、学生も構成している。授業を良くするも悪くするも先生だけでなく学生にもかかっている（学生はただの授業の「消費者」ではない）。そのような体制でこそ学生側からの意見が教養教育の理念をより具体化すると思う。以上二点をあげたがいずれにせよ主体性は「教養」にとって欠かせない要素ではないだろうか。



FD 研究会を開催します！ ふるってご参加下さい！

テーマは「授業評価アンケートのあり方」について、その問題点と提言

「授業評価」の実施は、現在、社会的にも外部評価機構からも、つよく要請されています。岐阜大学教養教育推進センターは、「授業改善」を目的に、そうした学生アンケートをすでに実施し、学生の満足度という視点から「モデル」となりそうな授業をピックアップして公表することも試みてきました。

しかし他方で、そうした学生アンケートのあり方や評価項目についてさまざまな問題が見いだされ、学生・教員双方から疑問が指摘されてきました。

とくに「学生による授業評価」が「教員評価」に使われるのではないかという懸念の声や問題点の指摘は多く、この点に十分配慮した「授業評価」のあり方を考えねばならないと思います。

そこでセンターとしては、授業評価のあり方を再検討したいと思い、「案」を作りそれを全学での考察のテーマとしたいと考え、教養教育推進センターFD研究会のテーマとすることとしました。

研究会では、以下の点について、ディスカッションします。

- 1 学生による授業評価の意味と問題点
- 2 教養教育推進センターの理念と問題意識
- 3 現行のアンケートに対する問題点の指摘
- 4 18年度後学期に実施予定のアンケート素案

とくに、18年度後学期に実施が予定されている「授業評価アンケート」において、従来の「学生による授業評価」以外に「教員による自己授業並びに学生評価アンケート」と「学生の勉学意識に関する自己評価アンケート」を加えて、三つの視点から一つの授業を顧みることを提言します。これは全国的に独自性がある反面、いろいろと問題もあると思います。みなさんのご意見をいただきたいと思います。

平成18年度 第1回FD研究会

日時 平成18年7月5日(水)

午後3時～5時

場所 全学共通教育講義棟 105 教室

主催 教養教育推進センター



平成15年度岐阜大学全学共通教育FD研究会の会場風景。「大学における習熟度別学習の現状」をテーマに発表・報告・質疑応答が行われた。

質問・意見箱を設置しました！

「みなさんの声を寄せてください、すぐ返事します」



教養教育について「何なのだろう?」「どうして?」「こうして欲しいな」「こういう工夫はどうですか」といった疑問・意見・提案などを、全学共通教育事務室の前の「教養教育についての声の箱」に、そこに用意した用紙を使って書いて下さい。

教養教育推進センターからすぐに返事を書いて、傍らにぶら下げた「返事のボード」にその返事をはっておきますので、見て下さい。

返事の相手が分からなくては困りますので、投書用の紙には学部・学年・氏名を書く欄がもうけてありますが、内容の関係で「本名」を知られたくない場合は、自分に分かる「ニックネーム」等を書いておいて下さい。

ただし「個人的中傷」とか「法的に問題」となりそうな内容の場合は「ボツ」とさせていただきます。氏名が明記してあり返事ができる場合には「ボツ」とした理由を返事します。

Eメールでの質問・意見も受け付けます。メール・アドレスは、szjyohos@cc.gifu-u.ac.jp です。

編集後記

教養教育推進センターの機関誌として「アングリア」を発売させていただきました。全学的にさまざまな学部のありかたやセンターの様子などが分かりにくく、それが全学を一つにまとめていくことを難しくしていると思います。

とりわけ教養教育推進センターは「すべての学生・教員」にかかわるセンターですので、センターからの分かりやすい情報はとても大事であると考え、それと同時に教養の授業の様子な

ども紹介して、教養教育の授業にたいする理解を一人でも多くの学生・教員・大学スタッフに持ってもらいたいとの願いを込めて発行に至ったものです。

これが今後どのような働きを示すものになるかは、全学の学生・教員・事務スタッフの協力によっていると思います。どうか見守っていただきたいと願っております。

編集責任者 教養教育推進 副センター長 小澤克彦

教養教育への工学部としての取り組み



教養教育推進センター員（工学部） 三松 順治

工学部では、学部開講科目として、「フレッシューズセミナー」・「現代テクノロジーの展開Ⅰ・Ⅱ」を開講し、工学部教員も、多くの個別科目の自然科学系、総合科目の授業の担当を行っております。少数ですが、スポーツ系の担当もあり、平成18年度からは、英語Bの一部（平成18年度は3授業、平成19年度以降は9授業）も担当しております。工学部学生は全学の約4割を占めるので、全学共通教育では、大きな受講者割合になっていますが、工学部全体の教員の中で、教養推進センターの授業を担当している割合は、約1/3で、上記の学部開講科目を含めると、間接的には、ほぼ全員の教員が関連しています。工学部では、一部の教養科目を高年次履修にしながら、専門科目を低学年で履修させ、工学者（エンジニア）としての素養を早期に学ぶようにカリキュラムを構成しています。昨今の事例で示されているように、工学者として必要な事は専門知識のみだけでなく、人とのコミュニケーション、国際的な感覚、デザインセンス、倫理観、文化知識など、多様な素養が裾野的に不可欠です。その重要な部分を、大学に入学して直ぐに学ぶのが、教養教育と考えます。

では、上記の教養教育の現体制で、工学部の学生が必要な教養を学ぶ体制が整っているでしょうか？私観ですが、残念ながら、ある程度のレベルにはありますが、充分とは言えない状況だと思います。工学部としての教養教育の授業理念および授業体系が、学生に明確に示されておらずに（or理解されておらずに）、大所見地立っての教養授業編成を行い、学んで貰う様な体制が万全でないと思います。現状の教養教育では、端的に言えば、寄せ集め的な授業の集合母体から、選択させていないか心配です。工学部内でも、上記のフレッシューズセミナー、現代テクノロジーの展開の授業で、各学科でユニークな工夫をして、学生の工学分野の基礎事項に興味関心を持たせる努力をしていますが、本当の教養教育には、工学部の教員からでは学べない事もあると思います。他学部においても同様ですので、工学部教員が協力する事で、工学センス（素養の一つ？）を身に付けて貰う事も可能だと思います。全学的に理念に沿った教養教育を創成・運用して行くには、教養教育に携る教員の強い共通意識の形成と、仮想的で留まるにしても一学部としての運用体制が必要と考える此の頃です。



教養教育推進センター員（地域科学部） 小栗 克之

FD 研究会を終えて一感想一

テーマは「授業評価アンケートのあり方について」ということであったが、本題に入る前に佐々木嘉三センター長から「他大学の教養教育の取組状況について」というテーマで報告があり、そこでは、他大学の教養教育の組織体制や実施方法、授業評価への取組状況等、多方面からの紹介がなされた。その報告に対して、終了後のアンケートの中に、他大学のシステムの利点と欠点を分析して、岐阜大学に最良のシステムを構築するように、という趣旨の要望があり、今後そのような発展的作業も必要かと思われる。

続いて、本題に関して副センター長の小澤克彦氏から前回の学生アンケートの問題点をふまえて「授業評価のあり方」及び平成18年度後期に予定されている「授業評価アンケート（案）」について、詳細な報告と提案がなされた。とくに後者の案の特徴として、三つの視点（「学生による授業評価」だけでなく、「教員による授業評価」や「学生の勉学意識」）からの調査や、分野別（知識系、語学系、技術系）、教育方法別（複数の教員による授業等）の調査区分がある。新しい調査方法だけに活発な議論がなされた。試行段階にある発展的調査のため、アンケートをする側、される側の多大な努力を必要とするが、それは効果的「授業評価法」を確立するための必要なプロセスであり、確立後はより省力的授業評価調査で、より効果的な授業改善が図られるようになることが期待される。



私の受けた教養教育

土川めぐ美

教育学部国語教育講座4年生

講義に感動する。その講義が自分の心を動かしていく。そんな講義に人は、一生の内、何度出会うことができるであろうか。

私が、大学時代、最も影響を受け、共感し、また、学ぶ意欲をそこから引き出す程心が動かされた講義は、全学共通教育の小澤克彦教授の「宗教論」の講義である。先生の熱心に語りかける言葉一つ一つに私の心は震えた。

その中で、私は、人は激しい悲嘆にくれた時、絶望した時、そこから立ち上がった時、神に訴えるのであらうと思った。神だけではなく、人間同士が信じ合うことより強い力はないとも思った。「もっと知りたい」「もっと考えたい」という気持ちを大学に入学してから初めて持つことができた。

先生の講義は、現在の様々の専門をこえた勉強をし、小学校の教師となる上での教養の基盤となっている。私も、やがてたくさん子ども達の前で授業をする。大学で身に付けた教養をもとに、子ども達を感動させ、学ぶ意欲を引き出し、何かの力をつける、そんな授業をできる様にしたいと思う。

教養教育 授業訪問シリーズ No.2

音楽史Ⅱ ー近世江戸の祭り囃子ー

佐原秀一助教授

副題のとおり、近世江戸の祭り囃子を学ぶ授業です。佐原先生の軽やかな笛の音に乗って、おはやしの太鼓を一生懸命たたいていました。

音色を聞いていると気分も軽やかになります。音をお届けできないのがとても残念です。

この科目を選んだ理由を受講生に聞いたところ、「めずらしい内容だったから」「シラバスを見てぜひやってみようと思った」などの意見がありました。

（全学共通教育事務室長・恩田美喜夫）



一見簡単そうですが、結構むづかしいと思われます。

平成18年度の前期講義が終わっての課題

教養教育推進副センター長 小澤 克彦

教養教育は、平成18年度から新しいカリキュラムで実施されました。その中で特に目に付いた点をここに整理してみます。

一番大きな問題は、自然科学系分野での補習的な授業、いわゆる「リメディアル教育」にあり、その趣旨が教員・学生に徹底せず、聴講学生の数やレベルや学部間での理解に問題が生じています。この問題は特に大きなテーマとして取り組んでいくつもりです。

さらに自然科学分野では「基礎」と「入門」と分けたその趣旨も理解が難しいようでした。自然科学分野では従来から授業のレベルと学部・学生間のギャップが言われているので、その趣旨の徹底をはかっていきたいと思ひます。

総合分野では「7回半で1単位の授業」の開講で授業の幅は広がっているのですが、その授業形態の理解が教員・学生に行き届いていなかったところが見られています。

人文と社会系の分野では「開講テーマの偏り、ないし不足」が問題になっています。これには教員の量と非常勤の問題が絡んできます。

英語については、従来から「授業日数の絶対的不足」が指摘されています。それを補足するための「自習システム」「学習支援体制」の整備には取り組んでいますが、「学習量」の増大とそれに伴う「教員数」の増大が望まれます。

未修外国語では「半期だけ」の授業の限界性が強く指摘されています。一年通年の開講カリキュラムや、さらに開講科目の整理や拡大も問題となっています。

スポーツ・健康分野では、やはり教員の充実と、時間帯としては一杯なので「集中講義」などを考えたいとしています。

英語教材利用の案内

図書館のAVコーナー（2階のゲートを入って左手）に、自学自習用の英語教材が配置されました。当初は8月以降の利用を予定していましたが、現在、すでに利用可能となっています。

TOEICやTOEFL、英検など、自分の英語力を試す各種試験用の教材も揃えてあります。レベルは日本人学習者の中級程度の教材が中心ですが、初級教材や上級教材もあります。授業の合間や夏休みを利用して、皆さんそれぞれの英語能力を向上させるためにお使いください。（著作権の関係から、残念ながら館外貸し出しはできません。図書館内での利用となります。）

英語に限らず、外国語の学習は、普段の継続的な学習が最も肝要です。授業だけではなく、こうした教材利用による学習も進めてください。（なお、後学期からはネットワークを利用した外国語学習システムも整備される予定です。おおいに利用しましょう！）



図書館での利用の仕方

- (1) 教材コーナーから利用しようと思う教材を選んで、貸し出しカウンターへ行く。
- (2) 学生証と引き替えにヘッドフォンと教材を受け取る。
- (3) 指定されたパソコン上で教材を展開し、学習を進める。
- (4) 利用後は、ヘッドフォンと教材をカウンターで返却し、学生証を受け取る。

（教養教育推進センター員【既修外国語部会】伊藤徳一郎）

質問・意見箱から

教養教育について、全学共通教育事務室前に、質問・意見箱を設置して2ヶ月が経過しました。その間に用紙で2件、メールで1件の投書がありました。簡単に報告します。

- ① 教養教育の必要性・重要性の意見と、要望として授業の出席をとってほしいとのことでした。
- ② TOEICでの単位認定の質問。
- ③ 後学期の履修登録の質問。

いずれも、3日以内には回答・返答をいたしました。

窓口で聞きづらいことや、些細なことでも結構です。質問・意見をお寄せください。毎日夕刻に意見箱を開けるのを楽しみにしている職員がいます。

（全学共通教育事務室・山口利哉）



編集後記

ニュースレター「アンゲリア」の二号をお届けします。「センターからのお知らせ」の他に、教養教育に関わる「学部の取り組み」「授業紹介」「学生の声」を中心に編集していますが、始めたばかりですので何かと不備もあると思います。皆様の一層のご意見やアイデアを寄せていただけたらとお願いして、編集後記にかえさせていただきます。

編集責任者 教養教育推進副センター長 小澤克彦

地域科学部における〈教養教育の担当コマ数〉



教養教育推進センター委員（地域科学部） 竹内 章郎

岐阜大学の教養教育に関して、地域科学部は、実に沢山のことに留意してきている。このことは、例えば、毎度の教授会が、教養教育センターに関するその都度の議論を積極的に取上げること自体に現れている。更には、教養の内容、教養と専門教育との関係、教養教育の担当者の在り方等々、多岐にわたることが地域科学部では常に意識されている。しかし以下では、そうした多様なことの中で、多分、最も外形的で最も面白みに欠けるであろう、地域科学部における〈教養教育の担当コマ数〉ということ、敢えて述べたい。

地域科学部では、学部創設以来、岐阜大学には通常の文系学部が存在しないことから、教養部なき後の教養教育の文系部分の相当数を、地域科学部が担わざるをえないことが、事実上、了解されてきた。更にそうした了解があっただけでなく、地域学部教員の多くが、以前から教養教育を担当してきたこともあって、大学教育における専門性の真の深化・伸張・拡大等々が、実は深い教養の有無に大きく左右されることを理解してもらった。

だから、10年前の学部発足時から、学生教育に従事する教員の時間（コマ数）について、2年生後半から始まり週に数コマ分は実施される専門セミナーと大学院教育を除き、教養か専門かを問わず講義科目を中心とした通常の授業を、全ての地域学部の教員が年に4コマは半期90分授業15回を1コマとカウントして一担当することを学部合意としている。そしてこの学部合意が、10年を経た現在も基本的には遵守されている。

この、教養か専門かを問わず年間4コマ担当という事情は、何の変哲もない面白くも何ともないことかもしれない。しかし例えば、地域科学では理系の専門教育も行なうにもかかわらず理系教員が少ないので、殆ど全ての理系教員は？—他学部で理系教員が多いことにもよるが—、実は教養教育は全く行わず、専門の基礎教育などによって年間4コマといういわばノルマを果たしている。その分、相対的には教員数の多い文系教員の各々が、毎年1コマか1コマ半一コマで担当する総合科目などによるが、人によっては2コマの教養教育に従事し、専門教育と併せて、やはり少なくとも年間4コマの授業を担当している。そこには、同じく年間4コマの学生のための授業を自らの責務とする地域科学の教員が存在するだけであり、この点では全ての教員の間に何の格差も差別もない。

こうした事情は、教養教育の重視とまではいかなくとも、少なくとも、専門教育と対比して教養教育を軽視するようなことはしない雰囲気には繋がっている。そして、教養と専門とを対等に捉えることへの一助にもなるこうした雰囲気を、地域科学部では教員のみならず、多くの学生もが分かち持っているように思われる。実際、私の身近な地域科学部の学生の中には、「優れた教養教育を受ける中で、自らの専門での勉強が明確になった」とか、「教養教育と専門との繋がりが理解できたことが大学教育の最も面白いところだった」といった意見を、述べにくる者もけっこういるのである。かなり専門性の高い卒論の構想を、教養教育のテキストにもヒントを得て組立ててくる専門セミナーの学生もいる。

何事であれ、実際にやって一担当してみても、はじめて判ることが多いと思う。単に教養の授業を担当するというのではなく、専門と教養との分断・格差を殆ど意識しない雰囲気の中で授業を担当してみると、自分の学部の学生だけを相手にする専門教育については専門なりの創意工夫に、また他学部生も多い教養教育については教養なりの創意工夫に、やりがいが見出せる。これは、地域科学部創設以来10年を経た私の実感でもある。



教養教育推進センター副センター長 小澤 克彦

外部評価について

平成18年12月1日に教養教育推進センターの外部評価が行われました。センターが設立されて以降3年間の成果を、外部の目から客観的に見て評価し、問題点の示唆・助言を頂くのが趣旨のものです。

評価委員長として名古屋大学の若尾祐司教養教育院長、他に委員として市立岐阜女子短期大学の松田学長、

岐阜高校の佐藤校長、十六銀行の三浦部長、岐阜新聞の河合部長に評価して頂きました。組織から教育内容、カリキュラム、活動状況、教育環境、学習支援、学生の要望の摂取、センターの研究活動、情宣活動など多面的に見ていただきました。

それぞれの視点での助言はたくさんありましたが、とりわけ外部から一般的に見て現在の大学教育が一番欠けていると思われるのが、学生の「人間性の育成」「多面的な視野の広さ」「人間や社会に対する洞察力の育成」とされていると言えませんが、ここでもやはりそうした点からの指摘が重要であったと認識されました。



工学部学生にとっての教養教育

北村 尚也

数理デザイン工学専攻 M1

学部1年生の頃、初めて受ける大学の授業に、私は驚かされていた。問題意識を持ち、事実をただ雑然と積みかさねていくのではなく、その裏にある因果関係にも注目する。これは、開講された教養科目のどれもが実践していた。今思えば当たり前のことなのだが、大学入試のために知識一辺倒だった私にとって、この、論理を柱とした構造的な知識の習得こそが、大学での教育なのだということを痛感し、これまでの学習姿勢を改めるきっかけとなった。

教養科目の中でも、特に印象的だったのは、同じく学部1年に受けた「フレッシューズセミナー」で行ったプレゼンテーションだ。グループ内で、問題意識の共有から始まり、議論を通じて一つの結論を出し、それを発表するという過程は、知識を超え、人格的な素養を必要とする。この素養は教科書から学べるものではない。また、数学や物理を学んで養われるものでもない。エンジニアにコミュニケーション・プレゼンテーション能力が問われる、昨今の社会事情を踏まえても、今後ますます教養教育の重要度は増すのではないだろうか。

工学部だからといって、教養教育をおろそかにしてよいはずがない。なぜなら、そこで培った経験や考え方は、少なからず自分の構成要素になっているからである。

教養教育 授業訪問シリーズ No.3

水上スポーツで学ぶ—カヌーなど

川岸與志男 教授 大橋廣 講師（非常勤）

この授業は、夏季休業中に2泊3日の学外実習を含みます。

カヌー、OPヨット、ロデオボート、ウェイクボードを通じて水と親しみ、自然との融合を楽しみます。

受講生は、自己実現に欠くことのできない安全で正しい操船技術を体得する一方で、野外スポーツに欠くことのできない自然への畏敬とその環境保全マナー、現代人に欠けていると言われる他者理解（思いやり）といった生涯につながる教養ある態度を身に付けます。さらに、そこに集う人達とのコミュニケーションをより深め、楽しく充実した合宿生活を体験します。

（全学共通教育事務室長・原田美香氏）



FD 研究会について

教養教育推進センター副センター長 小澤 克彦

平成18年12月の6日にセンターのFD研究会が開催され、テーマは「日本語能力」「自然系科目の補填授業」「英語の補填授業」（いわゆるリメディアル教育）とされました。メインテーマとして、岡山大学の塚本真也教授を招き、工学系の学生に対する「技術文章の書き方」に関わって講演をいただき、その後、本学における自然系科目については自然部会主任の若井センター員、英語に関わる補填的学習支援体制については英語部会主任の伊藤センター員より現状を分析し報告していただきました。



FD研究会会場風景



塚本真也教授



若井センター員



伊藤センター員

塚本教授の指摘それ自体は、工学系のみならず多くの教員に意識されていた問題と言えます。重要なのはそれを明確に意識し自覚的に問題を整理し、方法的にその解決に向けての具体的指導法を体系付けていた点にあると言えます。ですから一部は本学の教員によっても為されていることもあると言えますが、この問題の整理の明確さと、何よりその方法論の体系化に多くの教員が共鳴したことがアンケートにはっきりと示されておりました。

本学のリメディアル教育は端緒についたばかりなのでまだまだ問題点が多く、今回はその報告という性格をもっていました。今後とも多くの教員から助言・アイデアをいただけたらと願っているものです。

学生諸君の要望の実現

教員教育推進センター副センター長 小澤 克彦

共通教育事務室の前の廊下に、学生諸君からの要望や質問・アイデアをいただき即座に返答をするというボードをもうけておりますが、それは返答だけではなくできるものはすぐ実行に移すというシステムになっています。これは投書だけではなく事務室やセンター員への口頭による直接的なものであっても受け付けています。

それらの中で実行に移されようとして検討されているものは、たとえば、履修ガイダンスの見直し、学生相談員システムの形成、社会系分野の充実、もっと具体的なものとしては「気象学」の開設、などがあります。このように学生諸君からの声は即座に学生諸君に返されるようになっていきます。こうしたシステムを利用しない手はありません。多くの学生諸君がこうしたシステムを利用して全共の授業を学生諸君にとって良いものにしていって下さい。

ある『意見箱への投書』の軌跡 投書から新たな科目が生まれます。

11月9日 意見箱に投書あり。【「地学入門」の授業では、天気については学べません。天気を学べる授業を開講して下さい。】

—— 若井自然科学部会主任に送付し検討開始。

11月15日 回答。

【「地学入門」のシラバスに表記されているように天気についての講義計画はありません。ただし、直接的ではありませんが、総合科目の「中部の自然と災害」等のように気候にふれる授業はあります。確約はできませんが、早速22日開催の会議で貴殿の要望を取り上げ、開講に向けて検討をします。】

11月22日 自然科学授業編成部会で、開講に向けて検討に入ることを承認。

—— この間、部会主任が「気象学」開講に向けて調整

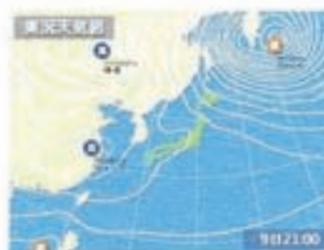
12月18日 工学部教員3人が担当し、来年度に開講する目途がついた。

12月19日 再度回答。

【〇〇様 あなたから要望のあった「天気を学べる授業の開講」ですが、カリキュラム編成上問題が生じなければ、来年度「気象学概論」（予定）として開講の見通しがつきました。楽しみにお待ち下さい。】

1月22日 授業編成部門会で承認。

（全学共通教育事務室・山口利哉）



全学共通教育推進センター1Fの事務室前に設置されている意見箱。みなさんもどんどん利用して下さい。

編集後記

アングリアの三号目をお届けします。こうした情宣活動はなかなかすぐに広まらないものですが、これはセンターからのニュースという性格と同時に、教員・学生双方の声をできるだけ広げようという趣旨で作られているものです。情報の収集やニュースの拡大へのアイデアなどがありましたらぜひセンター員や事務室まで届けて頂けたらと期待しております。

編集責任者 教員教育推進センター副センター長 小澤克彦

応用生物科学部が担当する授業の紹介



教養教育推進センター員（応用生物科学部） 藤谷 耕三

応用生物科学部は平成19年度の全学共通教育で、1単位の総合科目を0.5科目として数えると、37.5の授業を担当します。ここでは主に応用生物科学部の教員が開講している授業を紹介したいと思います。紙面の都合上詳しくは書きませんが、生物や農業に関連する授業を受講してみたい方は、参考にしてください。

最初に、学生がシラバスを読んで受講してみたいと思う授業を、受講人数をバロメーターとして、いくつかの授業科目名を紹介します。平成18年度の受講人数が多かった順に、総合Ⅰの「生き物よもやま話」、個別・自然（概論）の「生命の仕組み」、総合Ⅰの「世界の農業事情」、総合Ⅰの「化学と生物のインターフェイス」などです。いずれの授業も受講者数が100名を超える規模で、複数の教員が担当し、全学部の学生を対象に開講されている科目です。「生き物よもやま話」は平成18年度の受講者数が200名を超えた授業で、教育学部や地域科学部の学生が多く受講していました。「生命の仕組み」は授業時間帯の都合で、教育学部と応用生物科学部、「化学と生物のインターフェイス」も教育学部と工学部で大多数を占めていて、「世界の農業事情」は工学部、次いで教育学部の学生が多く受講していた科目です。これらの授業は教育学部や地域科学部の学生に人気があるようですが、受講者数が100名を超える規模の授業は決してよい環境にあるとは言えません。しかし、何か学生を惹きつける魅力があるようです。

次に、受講人数ではなく、平成16年後学期と平成17年前学期に行われた学生による授業評価で、実際に受講してみて、満足度の高い評価を得た授業（当センター発行の「教養教育こんな授業を受けたいベスト10集」参照）で、今年度も引き続き開講される授業の科目名を紹介します。総合Ⅰの「環境、エネルギー、生活の化学」、「フィールド科学概論Ⅰ—ご飯ができるまで—」（本冊子創刊号も参照）、「生物共生論」、総合Ⅱの「生物の多様性と人間社会」などです。これらの授業は平成18年度の受講人数が50人を超えない授業であり、良好な環境のなかで学習できると思います。

上記の「教養教育こんな授業を受けたいベスト10集」には教養教育推進センター開講の授業の中で学生から満足度の高い評価を得た授業が網羅されていますので、全学共通教育の授業の履修にシラバスとともに参考にして下さい。教養教育推進センターのホームページから広報誌・刊行物のところをクリックすると一番下にあります。



教養教育推進センター員（工学部） 若井 和憲

授業編成部門会の委員として

授業編成部門会の委員として私が気にしている話題はやはりリメディアル教育になる。そもそも、この問題は十年以上前にさかのぼる。それは教養教育から外れ、工学部でのことだった。入試とは何かから問題に当たればならないが、本来、「試験に合格したということは、その学力があれば授業について行ける」ということであるべきであろう。入試が多様化されたあと、私の所属する工学部を例に取れば、後期日程試験合格者は数学Ⅲの洗礼を受けないで来る。それは、入学時の数学の実力差を認めていることになる。ならば、後期日程入学者用の授業科目編成が特別に有っても良いはずである。ところが、実際は学生の選択ということに任せている。入学してきた学生を差別できないという配慮があるのかもしれない。一方でその平等論は、一層学力の差が付く可能性を放置することにほかならない。さらに工学部では二教科型という試験制度があった（今は廃止されている）。たとえばセンター試験でも個別試験でも、英語が課されない。必然的に、英語嫌いの学生はこの受験を選びやすい。「一芸に秀でるものは二芸に秀でる」という当初の楽観的期待は裏切られることになった。それどころか、4年生になって卒研の論文読みで「英語は要らないという試験をしておいて、

今更特別授業をしてくれたわけでもないのに、英語の論文を読めとはいかがなものか」という学生が現れるようになったと聞く。

教養教育に話を戻そう。入り口の多様化で、さらに専門高校卒業生への窓口も広くすることになった。それ自体は良いことだ。問題は、岐阜大学ではそうした学生への特別な手当はしてこなかったことにある。そういう学生は専門科目はある程度受けているものの、教養科目がいわば苦手である。それは高校で受講した科目内容からして当然のことであろう。そういう学生を受け入れながら、普通高校からの入学生と比較して不足する学問分野の補強をしなければ、その学生は不幸である。事実、推薦Ⅰという入試はセンター試験を課さなかったが、教養教育についてこられず、止めるひとが出た。いわば、制度の犠牲者だ。今は、その不足を補ってもらうために、リメディアル教育科目が取り入れられている。これは全国的に見て、遅れている方だろう。進んでいるところは実に進んでいる。先生方には、そのような教育をすることは不要という考えを持つ人もあろう。だが、入試自体には欠陥が無いのに、その後のフォローアップで欠陥を作っていたことになる。

それならば、リメディアル教育科目を充実すれば欠陥は消えただろうか？そうではない。これから先は教養教育から逸脱する発言であるが、敢えて言う。先日の教養教育推進センターのFD研究会で発言したが、専門高校出身者はいわゆる教養教育的科目は入学した段階で普通高校出身者に、劣ることになっている一方で、専門教育科目は進んでいる。そこを認めてあげなければ、片手落ちである。それを考慮しなければ、罰則を与えているようなものになる。リメディアル教育には、良いものをさらに伸ばす教育も含まれるという。ならば、その科目は専門課程での授業編成で対応していただきたい。でなければ、教養教育でリメディアル教育科目を作る意味が、問われることになる。

教養教育 授業訪問シリーズ No.4

空間認識力訓練技術

吉田 敏 教授 高橋義人 講師（非常勤）

この授業では、岐阜大学で開発した訓練用内視鏡を用い、人工的でリアルな大腸モデルに挿入し、大腸内視鏡の操作方法の体験及び訓練実習を行い、訓練度を数値化します。

内容からすると医学部の専門科目のようですが、教養科目に導入した動機を吉田 敏教授にインタビューしました。

（吉田教授）

現在、内視鏡は、医療分野に限らず、遺跡調査や機械工学の分野など産業界でも幅広く使われております。例えば地震でガレキの下敷きになった人を探したり、テレビの生物番組で巣穴の様子を映したりするのを見た人は多いと思います。

教養の授業としては、脳と視覚に関する基礎的学習と実際の体験を通して、視覚認識への理解を深めてもらうのが動機です。また、医師や獣医師を目指す学生さんにとっても、実際の高度な医療器具操作を1年生で体験することで、将来進路の選択においてきつと役に立つことがあると思います。



教養教育について思う

医学部看護学科2年生
加藤早苗



教養教育というのは、勉強の場であると共に出会いの場であると思う。講師の方との出会い、他学部の学友との出会い、知識と出会いなど、様々な出会いがあるが、中でも一番の出会い自分との出会いではないだろうか。

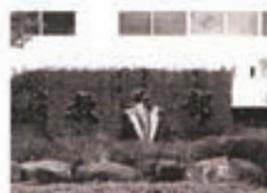
私が受けた中で最も印象的で、最も多く自分との出会いを与えてくれたのは教養教育の「自分らしいキャリア設計」という講義だ。そこでは、講師の方々の話を聞くだけでなく、自分で自分について考え、自分の強みや弱みを見つけたり、今後の人生について計画を立てたりするということをさせてもらった。全ての講義がおわると、自分というものについて意外と分かっていなかったのだということに気づいた。大学生活ではその分かっていない自分について少しでも分かっていければいいと思う。そして、教養教育がそれにおいて一役買っていると私は思う。もちろん、学部・学科ごとにある専門科目によって得られることは決して少なくないし、将来的に直接役に立つのは専門教育が多くを占めるだろう。しかし、それと同じくらいのことを、私は教養教育によって得ることができたのだ。

学ぶことで自分を知り、知ることによって私を磨いていくことができる。そのことに気づかせてくれたのは他でもない、教養教育なのである。

むかし教養部というところが大学にはあった。



教養教育推進センター員（教育学部） 野村 幸弘



むかし教養部というところが大学にはあった。ちょうど10年前のことだ。10年ひと昔。今ではそんなことを気にかける人はほとんどいない。今の学生はまったく知らないだろう。全学共通教育棟の前にかつての「教養部」の碑(?)がひっそりと墓石のようにおかれていることに気づく人もいない。

僕は今から5年前、まるでお墓参りのようにその碑に献花したことがある。信心深いのだ。教養教育に深い信頼を寄せている、という意味である。

去年、教養教育推進センター員になって、センターの看板をつけることを提案した。そして広報誌をどんどん出すことになった。いろんな広告物や発行物が毎日届き、それらがゴミになって行く中で、なんとかゴミ箱に捨てられないような広報誌。捨てずに手元に残しておきたい。ゆっくり中味を読みたい。そんな美術品のような印刷物を作りたい。それがこのニュースレター「アングリア」であり、広報誌「ディアログス」である。

4月11日から『学習支援室』を開設します！

教養教育推進センターでは、4月から「学習支援室」を開設します。

◆何でも相談室

学習面、履修関係などについて、教員及び各学部の学生相談員が対応します。何でも相談ください。

【開設曜日・時間】

月・火曜日：16時から18時
水曜日：13時から17時

◆英語学習相談室

英語の基礎学力の修得、英検・TOEFL・TOEIC受験など英語学習全般及び留学などについて、英語担当教員が対応します。

【開設曜日・時間】

(前学期) 火曜日：12時半から14時
(後学期) 月曜日：12時半から14時

*いずれも授業開講期間（休業・休講期間を除く）



編集後記

平成18年度から教養教育推進センターからのニュースを手短かに早く皆様にお届けしようということで、ニュースレター「アングリア」を企画いたしました。その4号を配布させていただきます。今年初めての企画であったため至らぬ点が多々あったと思います。来年度はその反省を踏まえ、多くの教員・学生の声も取り込んでいきたいと考えております。皆様のご協力が何よりも欠かせません。いろいろとアイデアやご意見をいただけたらと思います。そうした環境を早急に作ろうと思索している最中です。来年度も宜しくお願いいたします。

編集責任者 教養教育推進 副センター長 小澤克彦



暗記より理解を、考える力を養おう。

教養教育推進センター長 中村 征夫

受験勉強の弊害か、入学後間も無い学生には「勉強とは暗記することだ。」と思っている者が多いようだ。しかし暗記は勉学の目的でも手段でもない。学生諸君に大学で身に付けて欲しいことは、何よりも“考える力”である。記憶力だけなら小さなパソコンの方が人間よりはるかに優れている。社会は諸君に記憶力を期待していない。新しいことを考える力、創造力を期待している。ではどうすればよいか。何事にも練習あるのみである。“考える力”を身につけるためには“考える練習”を何度も繰り返す以外にない。授業で習うことは、昔、誰かが正しく考えた末に得た結論である。諸君だって同じように正しく考えれば、同じ結論が得られるはずである。理解するとはそういう追体験をすることである。これを何度も繰り返すことによって“考える力”が身につく。暗記するな、理解せよ、記憶は理解について来る。

教育学部と教養教育

教養教育推進センター委員（教育学部） 弓削 繁



先日テレビをみていると、アメリカで95歳の女性が孫娘と一緒に大学を卒業したというニュースを伝えていました。更に大学院を目指しているとも聞き、学ぶということについていると考えさせられたことでした。

さて、教育学部の教養教育への関わりについて、まず数量面から説明しますと、今年度は全科目合わせて79.5コマを担当しています。これは常勤教員担当の総コマ数の28.0%に当たります。なかでも人文科学は31コマで、常勤担当分の62.5%、スポーツ・健康科学は10コマで、同じく50%という高い割合を占めています。教育学部の学生定員は1学年250名、全学のちょうど20%ですから、教育学部がいかにも多くのコマを担当しているかご理解いただけると思います。

ところで、近頃教育改革が声高に叫ばれ、教員養成への期待と要望がとみに高まっていますが、周知のとおり教育学部ではいち早く学校現場を重視したACTプランを策定、実施するとともに、6年目研修・12年目研修など学校教員研修にも力を注ぎ、また、インターネット大学院や専門職大学院の開設（準備）など大学院改革にも積極的に取り組んできております。そのようなわけで教育学部は日々何かと忙しいのですが、それにも関わらずこれだけ教養教育に深く関与するのは、何も外からの要請によるばかりではなく、学部も教員も教養教育の重要性をしっかりと認識しているからにほかなりません。特に教育学部の学生に限っていいと、平成10年に教員免許法の一部が改正され、教科専門の必要最低単位数が40単位から20単位に減ってしまいました。それには勿論生徒や学校を取り巻く諸事情が投影しているわけですが、ただ殆ど選択の余地のないこれらの科目だけで教師に必要な専門的力が身につくものか、いささか心配なところです。その点、幅広い知識や考え方や人としての生き方などを学ぶ教養教育は教育学部の学生にとって益々重要になってきています。

思うに、教養教育のなかにはすぐに理解出来るものもあれば、ある程度専門の世界を覗いた後でなければ身につかないものもあるでしょう。また、長い人生経験を通してやっと腑に落ちるといったものもあるはず。学生諸君には一見つまらなく感じられる講義にも辛抱強く付き合ってみることをお勧めします。歳を重ねるにつれ、思わぬ教養が意味を持ってくることもあれば、改めて学び直したいという気持ちが生まれてくることもあるのです。

「教養」を学ぶ

門脇章夫

農学研究科生物資源利用学専攻M2



大学を卒業することは難しくない。無理なく単位を取得できる科目を選択し、所定の単位数を揃えさえすれば、卒業することはできる。そしてそこには、教養科目による単位が含まれている。

学部、学科を選んで入学してきている以上、その専門科目には学生の多くが真剣に取り組むだろう。しかし、教養科目はどうか。善き社会人となるため、多様な知識を身につけ、広い視野を持ち、豊かな人間性を養うための教養教育。その必要性は確かに分かるが、長い受験勉強から解放され、それまでより遙かに自由な身となった大学生のどれ程がその教養教育の意義を考え学んでいるだろうか。

私自身、学部1年当時に教養科目で学んだ全てのことを覚えている訳ではない。だが、いくつかの印象的であった科目は、大学院生となった今も確かに自分の内に残り、自らを構成する力となっている。

繰り返すが、大学を卒業することは難しくない。しかしそうであるからこそ、教養科目を受け身ではなく自ら学ぼうとする姿勢が必要であると言えるだろう。ただ卒業するためだけではなく、そこで意味のある“貴重な何か”を得るために。

教養教育 授業訪問シリーズ No.5

合意形成の理念と技術

六郷恵哲 教授 水谷香織 講師



オレンジの小話を知っていますか？こんな問いかけから授業は始まりました。難しそうな授業名とは少し違った切り出しでした。

オレンジが1個ありました。ある姉妹が2人ともそのオレンジが欲しいと言いました。あなたがお母さんなら、なんと言いますか？

しかし、このシンプルな小話に答えることを糸口に、背景となる合意形成の理念を学び、合意にいたるまでのコミュニケーション技法を身につけることが授業の到達目標となる。授業回数8回の総合科目での1単位科目ですが、授業の進行は、与えられた命題をグループに分かれて議論・発表・批評し、最後には個々に今日の授業の「ふりかえりシート」を作成する。またあるときには、対立した利害関係者の合意形成までのシナリオをグループで作成し、それを皆の前で演じ批評をもらうという「ロールプレイ型」授業も体験できる。まさに参加型の授業で、適度な緊張感の中でコミュニケーション技術と同時にその理念も学んでゆきます。なんといっても圧巻なのが、その授業の成績評価の方法までもが、受講生と担当教員で合意形成し決めてゆくことです。担当教員は工学部の六郷先生ですが、実際の授業の進行をファシリテイトを専門としておられる水谷先生によって展開されるのも一味違った授業の一因となっています。

（全学共通教育事務室・山口利雄）

動き出した学生支援室

(全学共通教育講義棟1階にあります)

4月11日から学習支援室を開設しています。

「何でも相談室」として、学生相談員が、学習、履修関係などを中心に対応します。皆さんの先輩が気軽に相談にのりますので、是非足を運んでください。

月・火曜日 16:00～18:00
水曜日 13:00～17:00



履修相談にアドバイス



ヒアリング相談にきました

また「英語学習相談室」は、英語担当教員が学習全般、英検等の資格試験及び留学等について相談にのっています。

前学期 火曜日 12:00～13:00
後学期 月曜日 12:00～13:00



相談員打ち合わせ会

まだ、駆け出しの相談室ですが、センターが設置した意見箱もまもなく1年を迎え、ここにきてようやく投書件数も増えてきました。

相談室と意見箱についてもどうぞよろしくお願ひします。

(昨年6月22日に設置した意見箱への投書件数も14件になりました。)

教養教育 授業訪問シリーズ No.6

ドイツ語Ⅰ(抽出クラス)

フォン・フラクシュタイン、アレクサンドラ 准教授



「『ドイツ語入門』だから文法の基礎が楽しく学べる!」と言っても、あまり興味を感じませんよね。でも、未修外国語は結構楽しいですよ。それは新鮮な気持ちで、ちょっと違う考え方や文化に触れることができるから。そして言語とは、それを使う人たちの意識の表れだから。

授業では、説明を少な目に、その代わり練習問題を多目にして生きたドイツ語を身につけることを目指します。心を込めてつくった「手打ち問題」が自慢で、個人的な指導が特長です。

(フォン・フラクシュタイン、アレクサンドラ 准教授)

FD 研究会開催のお知らせ

日時: 9/27(木)～9/28(金)

場所: 「かんぼの宿」(羽島市)

テーマ

「学部の考える教養教育

- 基本的な考え方と具体的な課題 -

基調討論

第1部: 学部&センターからの報告

第2部: 部会からの報告

個別テーマ討論

リメディアル教育のあり方

時間をかけた自由な討論と情報の共有化

編集後記

平成19年度教養教育推進センターのニュースレター「アンゲリア」第一号、通算第五号を発行させていただきました。今年度はセンター長が交代して新しい体制で進んでいくこととなり、その新センター長の抱負を冒頭に掲げさせていただきました。このニュースレターはこれまで、センターからのニュースの他に、各学部から教養教育にかかわる考え方を自由に述べてもらったり、教養の授業の紹介や学生の感想・激励などを特集してきました。今年度はそれを踏まえて、これからもう少し教員や学生の自由な意見も取り上げていきたいと考えています。ぜひさまざまな意見をお寄せ下さい。

編集責任者 教養教育推進 副センター 小澤克彦



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。



学生相談員の経験

地域科学部3年
小鳥 絵里子

私は今年の4月から、新入生を対象とした学生相談員を経験させてもらっている。私が入学した時も感じたことだが、大学の授業の取り方というのは大変複雑である。配られた紙だけでは理解し難いし、この時期を1人でスムーズに乗り切れることはなかなか難しい。

そこで、このような相談室が今年度から設けられたのである。この部屋は全学共通教育講義棟の1階にあり、そこに学生相談員が待機している。新入生を中心に、相談事がある人はここを訪れ、相談員に質問をすることができるのである。

さらに、このシステムにはもうひとつの大きなメリットがある。それは学生が学生の相談にのるという点である。学生同士でしか話せないこと、先輩に聞きたいこと、相談したいこと、それは授業の取り方や内容だけでなく、サークルやイベント、学校周辺の環境なども含め、岐阜大学そのものについて広範囲にわたって知ることができる場のひとつとなり、こうした場所はとても貴重であると思う。その上、新入生を主として学生の分かりにくいことの傾向を知ることができることから、学生が生活しやすい環境を整えることも可能となる。

また、入学したての頃は知り合いも少なく、気軽に立ち入ることのできるこのような一室があることは、安心できると同時にとても便利である。さらに、私が属する地域科学部のように、大人数でひとつの団体となっている学部、学科では、タテのつながりというものがほとんどない。そこでこの相談室が先輩後輩のひとつの出会いの場にもなるものと考えられる。

しかし今回は、初めての試みということで新入生の間での知名度も低かったからだろうか、実際相談室を訪れたのは数えられるほどの人数であった。他にも原因があったかもしれない。このように、大きな可能性を持ちながらも現実ではなかなかうまくいかない。改善すべき点を模索し、改善し、来年度までにはよりよいシステムにすべきだと感じた。



おいでん、学習支援室!!

応用生物科学部2年
上田 英里

皆さん、こんにちは。私は学習支援室で学習相談員の一人として、日々不安を抱えた新入生の皆さんの相談を待っています。

この「学習支援室」は、今年4月に開設された新しいもので、昨年度、私が大学に入学したときには無かったものです。入学当初、私は今までと大学との環境の違いに戸惑い、常に不安を感じていました。しかしその不安をぶつける場所が無く、全てが手探りのまま一年間を過ごしたのです。あの時、学習支援室の様に気軽に相談できる場所があったらよかったですねといつも思っていますが、それはもう過ぎたこと。今は、あの頃の私と同じ悩みや不安を抱えている後輩達の力になりたいという思いを胸に、支援室の椅子に座っています。

しかし現在、相談者の数は大変少なく、私達相談員は寂しい思いをしています。相談員達は先輩としてだけでなく、同じ学生として、生活のいろいろな場面についての相談に乗ってくれるはず。皆話好きの、とても気のいい人たちがかりですよ。ほんの些細なことでも構いません。ただ単に話し相手が欲しい、そんな理由で訪ねてきて頂いても、私達は歓迎します。ちょっと友達の部屋に立ち寄りような感覚で、全学共通教育講義棟1階「学習支援室」をあなたものぞいてみませんか。

授業訪問シリーズ No.7

言語学I—岐阜県方言のしくみを学ぶ—

山田敏弘准教授

「フク」「イツ」「ドコ」このアクセントはどうか?共通語と自分のアクセントを比較チェックさせながら、授業に引き込んでゆき、「共通語を知ることには必要だけど、自分を変えてまで合わせる必要は全くないよ。ただ、使い分けの力は必要だけだね。」と山田先生。

普段学生が使っている方言を素材にして、日本語、そして言語全般を考えていく授業には、今年、300名近い受講希望者が殺到し初めて抽選がおこなわれました。

授業は160名の受講生が、独自に作成されたテキストを用いて、方言会話の口頭練習をしたり、友だちや家族に毎回調査をしたりと、かなりたいへんですが、毎回、全員の調査結果を合わせて地図化されて返されると、あちこちで驚きの声が上がります。皆が作り上げている授業であるとの意識が醸成されていきます。

たいへんな授業ですが、お楽しみも仕込まれています。

毎回、使われる方言ビデオや歌や物語などのAV教材を楽しみにしている学生もいますし、今年の七夕の時期には、方言で短冊に願い事を書いて盛り上がりしました。

「身近な題材を全問的レベルで考え、楽しく学べる授業。」がモットーのこの授業。

ワークブックともなっている独自テキストを先生が学期途中と最後にチェックするなど、大学入学時の学習姿勢構築も考えられています。「えらてえらて、こんな授業そーもやとれすか!」と言いつつも、学生から教わる方言情報に、笑みのこぼれる山田先生でした。



学習支援室のご案内

●何でも相談

学習面、履修関係などについて、教員及び各学部の学生相談員が対応します。何でも相談ください。

【開室曜日・時間】 月・火曜日：16時から18時 水曜日：13時から17時

●英語学習相談

英語の基礎学力の修得、英検・TOEFL・TOEIC受験など英語学習全般及び留学などについて、英語担当教員が対応します。

【開室曜日・時間及び担当教員】 月曜日：12時から13時30分 杉山容子先生(非常勤講師)
火曜日：12時から13時30分 長尾裕子先生(非常勤講師)

*いずれも授業開講期間(休業・休講期間を除く)



18年度後期の授業評価アンケートにおける学生の要望とセンターからの応答

A.すでに対応済みの要望

- 1.エアコンの問題。集中管理するのではなく、気温によって適宜稼働できるように。
●通年、教室で教員が稼働するシステムに改善した。

- 2.参考図書の一覧表。参考図書を「一覧表」にして学生に配布して欲しい。
●すでに参考図書一覧表の作成に入った。早急に配布する。

B.すでに対応策の検討に入っているもの

- 1.授業貸し出し用のノートパソコンにもOpen officeを入れて欲しい。
●早急に実現する。
- 2.受講生の規模と教室の大きなアンバランスにかかわっての要望が多数ある。
●すでに事務的に可能な限りで対応している。そのことを教員に周知する。

- 3.レポート用紙の問題。
●教員に対して、明確な指示を与えるように要望する。

C.早急に委員会で検討すべきと考えられる問題

- 1.受講希望者多数の場合の「足きり」について。方法にかかわっての「クレーム」と「改善」の要望。
●「足きり」の方法について、単純な抽選ではなく「小レポート」等の方法を考えて頂くように教員に要望する。改善策については、後学期希望者が多数になると予測された授業の一部について「もう一コマ曜日を変えて開講」を実行した。

- 2.連絡・提示は掲示だけではなく、プリントとAIMS GIFUを用いて欲しい。
●事務的に検討し、教員の協力をお願いする。

- 3.出席をとるのに、点呼は大人数の場合時間が掛かりすぎる。
●来年度から各教室に設置されるICカードを用いた「出席情報システム(入・退室の時間を記録する装置)」によって対応してもらうことを教員に要望する。

- 4.教員は自分の使う教室の「機材の扱い方」を事前に勉強しておいて欲しい。
●教室毎に、機材の更新などで使用方法が異なることがあることを教員は知らない。事前に教員に確認をお願いすることを要望する。

- 5.英語の授業にかかわっての多くの要望
●英語に関しては従来からさまざまな問題、要望がある。今後とも継続的に議論する予定である。

- 6.未修外国語について次の疑問・要望があった。

- ①「それをやる意味が分からない」
●未修外国語は初年次学生にとっては初めてのものです。内容や意味等の情報の提示を丁寧に行うこととする。

- ②「未修の登録で、第1希望をはずされ、第2~3希望に回されてしまう基準はどこにあるのか」
●履修申請カードに「未修外国語希望調査欄」選択肢を基準としている。登録のあり方についてはガイダンスを丁寧に行うこととする。

- ③「未修外国語を2年次以降も引き続き受けたい」
●2年時以降の開講については今のところ全学共通教育では対応していない。これについては教員に相談すること。

- 7.総合について、「半期という授業は組み合わせが難しい」また「半期ではなく15回やってほしい」という要望。
●委員会で対応策を検討することを決定した。来年度に向けて対応をはかっていきたい。

D.再確認を徹底すべきもの

- 1.板書に対するクレームも非常に多かった。
●以前から要望してあるのだが、重ねて教員に要望する。

- 2.教員の「授業時間の延長」「遅刻」「休講」に対するクレーム。
●ここも重ねて教員に周知を徹底したい。

- 3.シラバスについて、「1.内容と実際の授業とが異なっていることがある」、特に「2.テストやレポートの課題提示の突然の変更は腹立たしい」「3.やむを得ぬ変更の場合は早めに連絡して欲しい」等の複数のクレームがあった。
●ここも重ねて教員に周知する。

- 4.学生の私語や遅刻に対して、教員個々の対応は勿論のこととして、大学として厳しい態度を示すべき。
●教員の注意ももっともだが、問題の根はそうした一部の学生にある。学生に対する注意を再周知すると共に、教員にも注意の喚起などをお願いする。また遅刻・早退の頻発に対しては、大学は防止のための手段をすずにとり、各教室にICカードを用いた「出席情報システム」を設置することとしたので、その活用により減少することを期待している。

編集後記

センターニュース「アンゲリア」の6号を刊行しました。今回から「壁新聞」という方式にして、多くの方々に気軽に目を通してもらおうとしました。内容も全学共通教育の授業の紹介や学生諸君の声をたくさんにしたいという方針で作成しました。今後とも学生諸君の声をたくさん反映させたものにと考えております。いろいろアイディアや要望・意見を頂けると幸いです。持ち帰り用のものも作成してありますので、それは自由にお持ち帰り下さい。

編集責任・教養教育推進センター
副センター長、小澤克彦



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。

授業訪問シリーズ No.8

生き物よもやま話

授業担当教員：福士 秀人、山口 剛士、山添 和明



この授業では、毎年多くの学生(2004年・351人、2005年・297人2006年・272人)が受講しており、今年度後学期から開始されたWeb履修申請人数も268人(定員を超えたため、レポートで選考したので最終受講人数は145人)でした。

3人の講師がそれぞれのテーマにそって話をされており、1回ずつ完結した講義になっていますので、今回は毎年受講希望者が多い理由を探るため、福士教授の授業を訪問しました。

シラバスの「受講者へのメッセージ」では「生き物の不思議さをいっしょに楽しむと同時に、生きていることと『死』についても考える時間になりたいと思っています。いっしょに勉強しましょう。」とありましたので、どのように講義を進められるのか拝見していると、「のっつきー野日記」という動物の死を描いた『絵本』や『死(Death in Nature)』という『写真集』をプロジェクターで見せて授業に引き込んでいき、生き物の『死』とは他の生き物の『生』にとっても必要なものであることを、生物学の視点から説明されました。「一匹の動物の死」から見ていくと生物の死骸などは、ほかの動物に食べられたり細菌・菌類などの働きによって分解されてゆき、やがて無機物と水と二酸化炭素にまで分解され、自然の中を循環していく過程となることなどを大変分かりやすく講義されていました。

さらに、「命の大切さ」と『死』をリアルに見つめる本の紹介として、村井淳志著の『いのち』を食べる私たち—ニワトリを殺して食べる授業『死』からの隔離を解く—を紹介されるなど、多くの学生達が集中力を切らさないように講義を進める福士先生の授業でした。(全学共通教育事務局・正村隆弘)

この授業について福士教授にインタビューしました。

「毎年、多くの学生に受講してもらい光栄に思います。今年は受講者制限があったために、半数程度の学生さんにしか聞いてもらえなかったのはとても残念です。生き物の素晴らしさや生物学の楽しさを様々な視点から説明するようにしています。3人の講師それぞれがちがった立場から話をするので、より学生たちに楽しんで聞いてもらっていると思います。部分的に難しかったとの声もレポートで見ますが、それでも勉強になってよかったですと書かれているのを読むと、やってよかったですと思います。毎回、全員のレポートを読むのは時間がかかりますが、私にとっては学生たちの反響を知るための大事な時間です。良かった所、良くなかった所、さらに改善して欲しい所など素直な声を授業に活かすようにしています。来年度も講師一同、張り切って講義をする予定ですので、楽しみにしてください。」



英語相談室のこの一年を振り返って

英語学習相談 担当教員

長尾 裕子



昨年4月に英語相談室が開設されてから1年が過ぎようとしています。

私なりにこの1年を振り返ってみたいと思います。

1番多かった相談は、TOEICやTOEFLを受けるにあたっての勉強方法でした。

TOEICは就職試験や大学院受験に必要なことも多く、思った以上に興味を持っている学生さんがいるのには驚くとともに嬉しくもありました。

勉強方法はそれぞれ異なるとは思いますが、特にリスニングの勉強をどうすればいいのかが悩んでいる人がたくさんいました。

2番目に多かったのは、留学相談でした。

これは夏休み前に特に多かった相談で、休暇中の短期留学に行った方がいいのか、海外に行って英語を勉強したいがどこに行ったらいいのか、留学前の準備をどうしたらいいかなど、様々な質問が寄せられました。

そんな相談には学校にあるパンフレットやインターネットで調べたりしながら、個々の学生さんに対応しました。

後学期になると、留学結果を報告しに来てくれる学生さんもあり、一人で何かをやりとげた達成感を私も共有することができました。

その他色々な相談がありましたが、一つ残念だったのは、英語学習相談の内容にも記してあるように、英語が苦手で困っていたり、成績のことで悩んでいたたりする学生さんがほとんど来てくれなかったことです。

1年の時は全員、2年次以降でも英語が必要な人はたくさんいます。

授業についていけず悩みを抱えている人も多いと思います。

この相談室はそんな学生さんのためにもあるのだということを忘れないでください。

私達はいつでもお役にたてるよう待っています。

Knock on the door! We are more than happy to help you!

まずは相談室へ☆

教育学部2年
日比 美由紀

私は大学2年生になって学習相談員という役割を与えられた。しかし相談員になって1年、私が相談員として働いたことはない。結局、相談員の時間は自分の課題をしたり、友達を呼んで話したり授業のプレゼンなどを作る場となってしまう。

私が相談員の話聞いたとき、とても画期的だと思った。大学のことでわからないことを大学の先輩に、教授とかそういう人たちの目線ではなく学生という同じ目線から教えてもらえるからだ。実際に私が大学1年生の時、授業をどうやって履修すればいいのかわからず、たくさんある授業の中からどの授業を選べばいいのかわからず、結局、友達を呼んで話したり授業のプレゼンなどを作る場となってしまう。私が相談員の話聞いたとき、とても画期的だと思った。大学のことでわからないことを大学の先輩に、教授とかそういう人たちの目線ではなく学生という同じ目線から教えてもらえるからだ。実際に私が大学1年生の時、授業をどうやって履修すればいいのかわからず、たくさんある授業の中からどの授業を選べばいいのかわからず、結局、友達を呼んで話したり授業のプレゼンなどを作る場となってしまう。

自分の単位が足りているかわからない頼りない先輩だけれど、毎週全学共通教育講義棟の1階で少しでもみんなの疑問や不安を取り除けたらなと思いついて、どんな些細な疑問でもいいし、授業のことだけでなく将来のことでもいい、それにただ先輩とはなしてみたい! そんなことでもいいと思う。来年は今年の改善点を活かしてさらにグレードアップしていると思うから、ぜひぜひ相談室に足を運んでみてください!!

教養教育推進センターからのお知らせ

今年度、センターから平成19年度全学共通教育開講科目「参考文献・書籍・DVD等紹介集」と「レポートの書き方」の冊子を発行いたしました。

「参考文献・書籍・DVD等紹介集」の方は完全なものからはかなり早く、完全を目指すには学生諸君からの働きかけや「アイデア、アドバイス」が欠かせません。ぜひいろいろな意見や提案等を寄せてもらいたいと願っております。

「レポートの書き方」はかなり万全を尽くしたつもりで、全くの初心者から中級、上級とレベルを上げ、一年生だけではなく卒論クラスまで適用できるようにしてあります。全ての学生諸君がこれを持って、その上で「各専門に応じた書き方」を指導教員から指導してもらおうことを願っております。

また、上記冊子が学生諸君に実質どの程度役に立ち、活用されたのかも知りたいと思いますので、全学共通教育事務室前の意見箱へご意見、提案等を投書してください。

教養教育推進センター、副センター長 小澤克彦

「参考文献・書籍・DVD等紹介集」と「レポートの書き方」の案内・配布



全学共通教育講義棟玄関

英語で人生の楽しさが倍増!

英語学習相談 担当教員

杉山 容子



英語に興味はあるけれど思うように読めない、書けない、聞けない、話せない。どうしてなのか。どうすれば良いのだろうかと思っている人はいっぱいいるでしょう。こんなに長く「勉強」してきたのに、「なぜ?」ということですね。

さあ、そこでこの英語学習相談室がお役に立ちます。あなたのその「勉強方法」にどこか問題がなかったでしょうか。一緒に考えてみましょう。そしてもう一度、本気で英語に取り組んでみませんか。これからでも決して遅すぎるということはないのですから。

英語は実用としての重要性は言うまでもないことですが、他にも、たとえば英語を使うということは自ずと日本語にない思考回路を発達させること、英語に張り付いた日本とは異なる文化を知ることになるのですから、それによって大いに私たちの視野が開け思考が深まります。様々な意味で世界が広がり、つまりは人生が二倍楽しめるというわけです。

どんなことでも判らないまま放っておかないことです。消化不良のままにしておく代わりに、一度相談室を覗いてみて下さい。どんな質問でも大歓迎です。そして、どのような学習上達方法でもこれと決めたら、とにかく継続してやってみようということが重要でしょう。やってみて初めて判ってくることや楽しさがいっぱいあります。少しでもお手伝いできたらと願っています。

編集後記

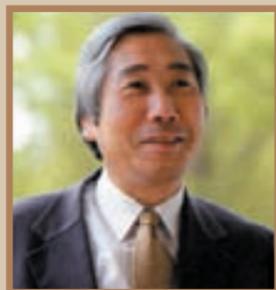
今年度の『アンゲリア』編集方針は「授業紹介」と「学生諸君に向けた情報」というものを柱としました。形態も「壁新聞」の形にして簡単に目を通せるものにしました。

こうした働き掛けのおかげで、学生諸君からの投書も増え、それは全学共通教育開講の授業ばかりでなく全学的に反映されていったものもあります。来年度もこの方針を進め、学生諸君の参加を増やしていきたいと思っています。さまざまなアイデア、アドバイス等を全学共通教育事務局まで寄せていただけると幸いです。

編集責任・教養教育推進センター、副センター長 小澤克彦



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。



教養教育推進センター長
古田 善伯

「精力善用」の視点から大学生活を考えよう

「精力善用」、これは講道館柔道の創始者である嘉納治五郎が柔道の修行によって達成すべき到達目標として提唱した言葉です。私は柔道を長年続けている関係で、この言葉がとても好きです。「精力善用」の意味は、自分の持っている力を最善に活用するように努めることだと教わりました。何か事を行う場合に自分の力を最善に活用することはそんなに簡単なことではないと思います。私自身、これまでの生活の中で行っている行動において本当に最善を尽くしているかと問われると確信が持てないことがたびたびありましたが、最近では「精力善用」の精神で何事にも対処しようと思えるようになってきました。そう心掛けることによって事後に充実感が持てるようになってきました。学生諸君も勉学をはじめとして何事を行う場合にも「精力善用」を心掛けて努力してみてください。それによって、自分の能力が向上するとともに、充実感が一層高まると思います。「精力善用」の視点から日頃の大学生活について再考してみてください。

意見箱

意見箱への履修についての意見と回答

Q 受講科目を変えるには?

科目によっては、シラバス上で文系・理系どちらの学生でも受けられるようになっていますが、文系の私には授業内容がほとんど理解できない科目があります。また、Web履修で確定科目の変更はできないのですか?

投書者：地域科学部 1年生

A 授業担当教員へ投書内容を直接伝え、今後シラバスへ記載するときには分かり易く、誤解が生まれにくい様にして欲しい旨、依頼しました。

また、一度受講が「確定」した科目の変更に関しては、原則として変更することは出来ません。しかし、履修科目の確認、訂正期間にやむを得ない理由で抽選科目以外の科目の取り消しをすることは可能です。なお、受講者数に余裕のある科目については、受講が許可される場合もあります。

Q 履修登録がよく分かりません!

履修についてですがいろいろお願いしたいことがあります。先日、履修登録をしようとした時できなかったため、学務の方にたずねたところ、再履修期間にもう一度パソコンから履修登録して下さいと言われたので、登録しようとしたらできませんでした。教授には履修できなかったんですけども言ったら「いいよ」と言われたので履修できるとかと思っていたんですが、学務に履修登録できていないのであきらめてくださいと言われました。教授に言ったら「いいよ」と言われて授業に出ていたのにいきなり無理と言われても納得いきません。教授と学務の方でもっと言うことを統一してもらいたいです。じゃないとどちらのことを信じていいかわかりません。

投書者：工学部 2年生

A 履修登録については、平成19年度後学期から「Web履修登録」に方法が変更され、始まったばかりなのでいろいろ不具合が生じているようです。原則として全学共通教育事務室での履修登録の取扱い及び指示が優先されます。今回は担当教員がWeb申請の仕組みをよく理解していなかったため行き違いが生じたようです。履修登録についてどんなことでも疑問があれば、期限内に窓口で確認してください。

また、AIMS-Gifuや配布物、掲示板等での確認を本人が必ず行ない、単位認定等で自分が不利益をこうむらないよう注意してください。全学共通教育事務室で相談して納得がいかなかったことや窓口で相談しにくいことは、本センターの「学習支援室」で学生相談員へ相談することも一つの手段です。4月と10月は何でも相談室で学習面や履修関係などについて、各学部の学生相談員が対応します。月曜日と火曜日は16:00~18:00、水曜日は13:00~17:00に全学共通教育講義棟1階[1A教室]南側手前の[125学習支援室]内で開室します。

Q 自由選択科目って?

自由選択科目の単位のカウントのされ方を具体的に教えてください。

投書者：地域科学部 1年生

A 自由選択科目の範囲や扱いについては、学部によって異なります。自分の所属する学部の「履修案内」などの冊子で確認するか、各学部の学務係窓口で尋ねてください。地域科学部の場合は、教養科目の自由選択科目として2単位必要です。岐阜大学が開設している教養科目(「学部開講科目」除く)あるいは放送大学やネットワーク大学コンソーシアム岐阜参加校の単位互換科目から個別科目・総合科目・外国語科目の最低修得単位数以外に2単位分を履修して下さい。幅広い科目の中から興味があり、履修しやすい(テレビ・ラジオやインターネットでのe-ラーニングだけでも履修できる科目があります。)科目を選択することもできます。

学生交流の場に



応用生物科学部
落合 恵利加



応用生物科学部
岸上 瞳

新入生の皆さん、こんにちは。大学生活には慣れてきましたか? 私たちは学習支援室の「何でも相談」で学生相談員をしています。学習支援室は、皆さんの疑問や不安を解消するために開設された部屋です。学生同士が話し合うことで、授業の履修、サークル、資格の取得、大学生活、などについて実際経験した私たちの「ナマの声」を伝えることができます。「学習」という言葉から勉強の質問だけなのではと思っている人、また、どのようなことを相談していいかわからない人も多いのではないのでしょうか。そこで、少し例を挙げたいと思います。

- GPAって何ですか。また、何に使うのですか。
- 岐大に通っているのに岐阜のことがわかりません。
- レポートってどうやって書けばいいのですか。
- 最近、運動不足なんです。いいところありませんか。
- 試験対策はどうやっていけばいいのですか。
- 学食のオススメメニューは何ですか。
- 落ち着いて学習できる空間はありますか。
- 気軽に話せる先輩がいません。誰かいませんか。

などなど。つまり、相談内容は何でも良いわけです。上記の例の回答が気になってきた人はもちろん、相談することが特にない人でも、訪ねて来て下されば私たちは歓迎します。お話ししましょう! 全学共通教育講義棟1階「学習支援室」にて、私たちはコーヒーとお菓子を用意して、あなたが来るのを待っています。秘密は絶対守ります。安心してどうぞ。皆さんが楽しい大学生活を送れるよう、全力で応援します!

学生の「何でも相談」所です!



工学研究科大学院生
柘植 洋一

みなさん、こんにちは。相談員をさせて頂くことになりました柘植洋一です。よろしくお祈りします。私達は学習支援室にて活動をしています。学習支援室とは、私たちが学生が気軽に相談できる場所を提供したいという目的で作られた施設です。学習などと堅い言葉がついていますが、要は「何でも相談」所です。学生生活って楽しい事が多いけど、不安や悩み事も多いですよ。私は岐阜大学に通ってもう6年目になります(おっさんです)。今では大学や岐阜市に詳しくなりましたが、入学したての頃は右も左も分からない事だらけでした。岐阜大学って広くてよく分からない、授業の履修はどうしよう、友達が出来かな、アルバイトをやりたいけど大丈夫かな、etc とまあ、みなさんも同じ気持ちを抱えているのではないのでしょうか?私の場合、友達と相談してきました。やはり友達に相談して解決出来ればそれが一番ですが、どうしても相談しにくい事ってありますよね。そんなみなさんの力になりたいと思い、相談役となりました。支援室なんて私が入学した時は無かったので、便利な場所が出来たと思います。不安や悩み、とても些細な事でも構いませんので是非私達に相談してみてください。自分や友達とは違った視点をもつ者としても、きっと良いアドバイスが出来ると思います。さて、悩みや不安の相談だけでは、少し堅いイメージを持ってしまったかもしれませんが、趣味や遊びの話も大歓迎です(私の趣味はバイクと釣りです)。友達に会う感覚で来てくれて大丈夫、むしろそちらの方が嬉しいです。新入生の方だけでなく、ベテラン大学生の方も、お気軽におこしくださいませ。それではみなさん学習支援室でお会いしましょう。

編集後記

新学年、新学期が始まりました。新入生のひとたちは、それぞれ何がしかの勉学の志を胸に抱いていることでしょう。あなたたちの勉学に資するよう、あなたたちが少しでも「賢く」なって上級学年に進めるよう、当センターも担当教員も力を注ぎます。頑張ってください。

「アンゲリア」の今号では、履修登録に関わるいくつかの疑問と回答が紹介されています。とくに、昨年度からWeb上で履修申請作業をすることとなり、紹介した問題以外にも課題や矛盾が生じています。当センターでは、それらの問題を学生の立場に立って解決していこうと考えています。学生の方ももちろん、教員の方も履修登録上の問題があれば、遠慮なく全学共通教育事務室へお知らせください。

編集責任：教養教育推進センター副センター長 中川 一雄

学習支援室と全学共通教育紹介コーナーの案内

●何でも相談(前学期は終了しました。後学期は10月に開室します!)
学習面、履修関係などについて、教員及び各学部の学生相談員が対応します。何でも相談ください。

●英語学習相談(現在開室中です! 後学期も開室します。)
英語の基礎学力の習得、英検、TOEFL、TOEIC受験など英語学習全般及び留学などについて、英語担当教員が対応します。

開室曜日、時間 月曜日、火曜日・12:00~13:30



アンゲリア



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。

授業訪問シリーズ No.9 美術史 — 美術作品の見方 —

授業担当教員：野村 幸弘



例年、受講生が多い「美術史」の講義ですが、美術作品の見方やおもしろさを知るといったので、今年度の前学期もWEB履修申請で174名もの学生が受講希望しました。

シラバス上の定員は100名でしたが、野村先生の寛容な判断もあって最終的に150名受講の講義となりました。

シラバスの「授業のねらい」欄には次のように記載されています。

「美術という「絵を描くこと」を思い浮かべる人が多いかもしれませんが、ここでは、美術作品を徹底的に「見ること」を学びます。美術作品は、もちろん各個人が好き勝手に自由に見ていいのですが、作品には「見方」があります。それを学ぶことで、美術作品がいかに多くのことを語りかけてくれるか気づくに違いありません。」

美術作品を見ることは好きなものの「見方」については知らない私も、どのような講義が行われていくのか興味をもって臨みました。すると、先生の熱意あふれる説明が進むにつれて、プロジェクトで映し出されたさまざまな時代のさまざまな作品が、まるで「こういう点を見て欲しい、こういうことを分かってくれたい」と訴えかけてくるような印象すら覚えました。野村先生は、時代による宗教性の違いや思想の変遷を分かりやすく説明され、私も作品の「見方」の一端を理解できたような気がしました。

受講生の理解を計るためか、AIMS-Gifuを利用したレポート提出の指示を出されたことにも、感心させられました。提出されるレポートを読んで次回の講義に活かそうとする先生の熱意と努力を想像すると、毎年受講希望者が多い理由も分かったような気がしました。

全学共通教育事務局 正村 隆弘

美術史の講義について野村先生が熱い思いを語りました。

小学校のときには大好きだったはずの図画工作が、中学に入るとなぜかキライになって行くんですね。理由は、絵が下手だとか、うまく表現できないとか。下手でもいいんだよ、なんて言ってもなぐさめになりません。そういうときにはどうすればいいの。答えはカンタンです。作品は作らなくてもいい、見ればいいんです！ただ、どうやって見ればいいんでしょうか。自分の好きなように見ればいいとよく言いますが、それって逆にけっこうむずかしいんですよ。作品の見かたにはコツがあるんです。それは2つの作品を比較することです。その方法をちょっと身につけたら、作品というのは、すいぶんいろいろなことを語り始めるんです。ウソだと思ったら、「美術史」の授業に出てみて下さい！

受講生のみなさんがAIMS-Gifuの掲示板に書き込んでくれた授業への感想を以下、いくつかご



紹介します。

「今まで作品を比較して見たことがなかったので、今日の授業は新鮮でした。似た作品を比較することで、作者の特徴やこだわりがこんなにも分かりやすくなるんだ、と知って驚きました。これまで美術館に行っても見方が分からず、ただ好き嫌いで見ているだけでしたが、これからは違った視点で見られそうです。美術鑑賞の本当のおもしろさを学んでいきたいです。」

「先輩のオススメの授業の1つに美術史があり、美術が苦手だったけど、授業を取ってみました。実際、授業を受けてみて、美術に対する考えが少し変わったように思います。初めて美術が楽しいと思えました。」

「今まで美術といえば、何か作ったり書いたりばかりで、そこまで興味を持っていませんでした。けれど、昨日の授業で、絵を比較して共通点や相違点を見つけたりしたこと、新たな美術に対する視点が生まれ、興味がわいてきました。」



教養教育への心構え

応用生物科学部 食品科学課程食品科学コース4年 中井 翔子



現在では教養＝一般教養という式が成り立っていることが多いが、教養とは本来個人の人格に結びついた知識や行い、さらにこれに関連した学問や芸術、精神修養のことを指す。無論、大学の教養教育における「教養」は後者を意味しており、したがって「人格に結びついた知識」にするためには個人が興味・関心をもって学ぶ必要があるだろう。

人の興味・関心というものには個人差があり、そのため教養科目は数多くある必要がある。実際、教養科目の選択肢は多く、おおむね教養科目の種類や数に関しては問題ないだろう。私が受けた科目の一つである「岐阜方言のしくみを学ぶ」など自分が暮らす地域に関係する科目も面白いものである。一方で、受講する側

である私たちに必要なものはやる気である。先ほど述べたようにこれがなければ始まらない。私自身、興味をもって受講した科目に関しては今でも思い出すが、身になっていないと実感できている。そして逆説的ではあるが、やる気がなければ身にならないということも実感してしまった。必要に迫られて受講した科目に関しては正直よく覚えていない。

実際問題、興味の持てる分野というのは自分の専門に関わることである場合が多いと思う。そこで、もちろん興味・関心を持って学ぶ方が大切であることは明らかだが、多方面への関心を向けるために自分の分野と関係のない科目を受講してみるのも選択肢の一つであろう。

一般教養授業の学び

医学部 看護学科4年 野原 江利子



現在4年生である私が、一般教養の授業を受けていたのは大学1年生の時。つまり今から3年前のことです。当時は岐阜大学に入学したばかりだったので、「大学の授業って一体どんなものだろう??」と不思議に思っていました。そういった期待と不安の中、大学の授業を受けていました。

一般教養でも専門分野でもそうなのですが、大学における授業というのは高校時代と大きく違って「授業を選択することができる」ということが特徴です。すなわち、自分の興味のある分野について学習することができます。そういった興味のある分野を学んでいくことで、知識を深めていけると思います。

また、私は2年生以降、専門分野の授業ばかりを受けていたり、実習があったり、知識が専門分野に偏っていますが、一般教養の授業では、専門分野だけでなく幅広い分野—人文科学系、社会科学系、自然科学系、スポーツ・健康科学系—があること

で、自身の視野を広げていくことができる良い機会だと思います。その機会の中で自分の学びたいことの方向性をもっていくことができるのではないかと思います。

あと、私個人としての感想ですが、一般教養の授業を選択する際はスポーツを選択することをお勧めします。専門分野の授業になると、知りあえる人というのはやはり学部内の人に限定されてしまいます。しかし、一般教養のスポーツ分野の授業では、スポーツを通して他の学部の方と話す機会が多く、知り合いになれる良い場面ですよ！

一般教養は幅広い知識を得られたり、多くの仲間と知り合える機会のある授業です。皆さんも自分の興味を持った分野を選択し、自分の知識の幅を広げ、深めていけるように学んでいて下さい！

「理科離れを防ぐための教育—理科実験講座—」を開催しました！



新聞・テレビ報道もされましたのでご存じの方も多いかと思いますが、教養教育推進センターでは、8月11日と12日の二日間、理科実験講座を開催しました。この講座は、岐阜大学活性化経費（教育）の支援を受けたプログラム、「理科離れを防ぐための教育—理科実験講座—」の一環として行われたもので、岐阜市周辺の小中学校の先生9名、岐阜大学の学生8名が参加しました。

教養教育推進センターが去年開催したFD研究会（大学の教育改善のための研究会）で、私たちは、小中学校の先生が「薬品に触るのが怖い」、「やったことがないので自信がない」、「どんなふうに器具を準備したらよいかかわからない」などの理由からなかなか理科の実験に取り組みめない現状を知りました。私たち理系の教員が理科好きになったのは、小中学生の頃、理科の先生が魔法使いのような実験を見せてくれたり体験させてくれたことや、野外で昆虫や植物あるいは星の美しさ、大地のダイナミックな動きに触れさせてくれたことに少なからず影響を受けています。理科離れが危惧されていますが、このような現状がその一因となっているのかもしれない。

講座は、11日が物理と生物、12日が化学と地学で、それぞれ3時間が割り当てられました。地学は野外（金華山）で行われました。参加した先生・学生からは「実際に実験や観察をすることができ、大変わかりやすくて良かった」という感想とともに、様々な要望も寄せられました。これらの意見を参考に、来年度に向けて講座の内容を改善していく予定です。大学の教育の目標は「何を学んだか」から「どのようなスキルを身につけたか」に変わりつつあります。

教養教育推進センターでも教養教育の中身を再検討しているところですが、講義主体のカリキュラムに、実験・実習・野外巡検をもっと取り入れていく必要があると感じています。

工学部 社会基盤工学科 地図マネジメント工学 教授 小嶋 智

私が全学共通教育を受けて感じたこと

工学部 応用情報学科4年 長野 宏紀



私は工学部に在学していますが全学共通教育の科目は自分の専攻とは関係の無いものばかりでした。

ですから、これから全学共通科目を履修しようと思う方も、履修を終えた方も「なぜ自分の専攻と関係の無いものを履修しなければならないのか?」と思うかもしれません。

実のところ、私は大学に入ってから初めて全学共通科目を履修申請したときそう思いました。

しかし、いざ学び始めると正直、数学系の専門科目より週に一度の体育や心理学が楽しくて仕方がありませんでした。

皆さん、もし岐阜大学に全学共通教育が無かったとしたらどうなるか想像してみてください。

例えば工学部生なら工学部に通い詰めて専門科目ばかり学ぶこ

とになるのですが、たまには気分転換に体を動かしてみたいとは思いませんか?

自分の専攻以外で知りたいこと、興味のあることはありませんか?

大学は将来、社会で活躍していく上で必要になる専門知識を学ぶ場所ですが、それだけに留まりません。

純粋な知的探究心を満たす場でもあると思います。学んだことは全て使うためとは限りません、単純に興味を深めるのもいいと思います。

そういう点では全学共通教育は意味のあるものだと感じました。

編集後記

今号の「アンゲリア」は盛り沢山です。授業訪問シリーズあり、学生の声あり、理科実験講座の報告あり、と。実は、教養教育推進センターの業務は数え切れないほど多種多様にあります。でも、そのコアは教養教育の実施と改善・維持という点に尽きます。つまり、専門教育だけでは培われない知識や知性の構築に資する教育が求められているのです。

この意味では、授業の紹介や高年次生の教養教育体験談などは、文字通り

の「アンゲリア」（伝言）として、このニュースレターを読むおにも1年生の人にとって役に立つことでしょうし、そう願っています。これらのシリーズは今後も掲載していく予定です。「この授業を紹介したい、あの授業の情報載せて」など、希望がありましたら、遠慮なく全学共通教育事務局（ここが教養教育の実務を担っています）へお伝えください。「アンゲリア」してください。

編集責任・教養教育推進センター 副センター長 中川 一雄



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。



授業訪問シリーズ No.10

授業科目名：「英語A2《L1E9》」

授業担当教員：巽徹（教育学部）

英語A2は、学部学科等による指定クラスで必修科目ですが、担当教員の様々な工夫で初年次英語教育の柱として「語彙力・構文力を伸長させる」ことを目指す科目です。

巽先生のシラバスでは、「授業のねらい」欄に次のように記載されています。

「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」それぞれの技能を高めるとともに、「聞いたり、話したり」「読んだり、話したり」するなど、複数の技能を組み合わせたタスクを行う。最終的には、四技能を用いた総合活動を通して、実践的コミュニケーション力を身に付けることをねらいとする。

さて、実は英語が「苦手」な私は、どのように講義が行われていくのか、興味をもって授業訪問しました。今回の訪問は、後学期14回目の講義であり、授業は全て英語で進められていました。

まず、バラク・オバマ米大統領の就任演説画像を使ってプロジェクトで見聞きさせながら、カードを配り、書かれた英単語のトピックをキーワードにして3人のグループで数分間フリートーキングをさせ、その間は各グループの話聞いて回り、アドバイスなどをしていました。（その間も先生のiPodとスピーカーからは、英語のBGMが流れていました。）

その後、カードの裏の「日替わりトピック」で巽先生のこのクラスについて、感想等をグループの内から1人ずつ英語で発表をさせました。（当然、絶賛ばかり?）

続いてGroup Work Reportingでは、4・5人のグループを作り、各グループから代表を1人ずつ出して、教室の外で待つ巽先生の所でパソコンを見ながら、先生があるストーリー（今回は古いオリンピックが題材）を英語で説明し、話しを聞き取らせ、各自が部屋に戻ると話の内容を英語でグループメンバーに伝えました。残りのメンバーは、それを聞いてメモを取り、ストーリーを英語で書いて再現する事を繰り返しました。そして、最終レポーターが英語で要約を書き、他のメンバーも要約をレポート提出しました。

ここでは、英語でアウトプットする動機として、「グループメンバーに伝えなくちゃ!」「英語で要約を書かなくちゃ!」「要約を提出しなくちゃ!」とみんな一生懸命でした。「インプット」重視の英語授業から「アウトプット」重視の英語授業へ様々な工夫をされ、飽きさせない講義で、文字通り言語内容を「出力」させ、音声や文字などを通して、各自から情報を発信させていました。

巽先生の授業を訪問し、今後の英語教育について考える場合、一つのキーコンセプトとして挙げられるのは、「話す」を中心としたアウトプット型の学習活動であろうと思えました。なお、この点については、巽先生が昨年末のFD研究会で話されたことと重なりました。

全学共通教育事務局 正村 隆弘

英語の講義について、巽先生が熱い思いを語りました。

今回の「授業訪問」で授業の様子をレポートしていただき、日ごろの授業を客観的に見つめる良い機会となりました。レポートの通り、授業は次のような骨組で構成されています。

- ① 英語のテレビ番組を見る
- ② 英語によるフリートーキング
- ③ Group Work Reportingの活動
- ④ 授業全体が英語で進められる

では、私の「熱い思い」を語る前に、今年受講生の皆さんの受講終了後のアンケートを基に受講生の「熱い思い」はたまた「熱い不満や批判?」をそれぞれの授業場面別にまとめてみることにします。

- ① 英語のテレビ番組を見る

今回の授業ではオバマ大統領の就任スピーチを見ましたが、いつもは、主にイギリスのテレビ番組（例:「クイズ\$ミリオネア」など）を視聴していました。受講者アンケートによると92%の人が「お勧め」の活動だと言っています。

受講者アンケートのコメント

- ・海外のクイズ番組を見て答えを考えてみるというのは面白かったし、何といても生の英語に触れているという感じですごくワクワクしました。
- ・外国のテレビ番組を見る機会は日常生活の中ではそんなにあるものではなく、この授業はそれができる唯一の貴重な時間です。
- ・クイズ\$ミリオネアは、クイズの内容が難しかったけど楽しかったです。教材用のビデオじゃなくて本当に放送されているものを見て、話すスピードと発音が知れて勉強になりました。
- ・イギリスのCMにきづ付けになった。



・高校の授業ではやることのなかったspeakingを取り入れた内容の授業があってとても自分のためになったと思いました。また、グループや、English Partyでは、いろいろな人とコミュニケーションをすることができて、とても面白かった。

・この授業の最初の頃に比べて、今の方が英語を話したり読んだりできるようになったと思います。毎時間、カードを使って会話する活動があり、頭の中で英文を組み立てるのに少しは慣れることができました。

・カードを使っている人々と英語で話したり、一つのテーマについてみんなで英語討論をしたり、自分の言いたいことを英語で伝えるのは本当に難しいことだと思いました。

初めのうちは2分間会話を続けることすら大変な様子でしたが、そのうち3分でも5分でも英語で会話を継続できるようになってきました。講義の最後にはご遠慮願いたい「おしゃべり」「雑談」ですが、英語の学習場面としては大歓迎でした。

③ Group Work Reportingの活動

授業レポートの中でも詳しく紹介いただいた通り、4技能を総合的に用いて学習してもらうのが、Group Work Reportingの活動です。「聞く」「話す」「読む」「書く」それぞれの力を総動員して頑張ってもらいました。

・「Group Work Reporting」という活動は難しいものでしたが、集中して英語を聞けば案外理解できるものだなと、少しばかり感動しました。グループ内で協力しながらやっていくのは楽しかったです。

・「Group Work Reporting」は、グループで力を合わせて文を作るというのがとても楽しかったです。英語を聞いて、英語で理解して、英語で話すということは、常に頭を動かしていたので、とても勉強になりました。最初は大変そうな授業だなと思いきや不安だったけど、だんだんこの授業が楽しくなっていきました。

・英語で話さなければならぬ状況に追い詰められるのはつらいけど、なんとか頭をしばって、単語をひねり出せました。普段の生活で英語をすることが全くなかったので疲れましたが、訓練されている感じがしました。

多様な個性との出会い

教育学部(特別聴講学生)
中国・電子科技大学交換留学生 魯貝

今年の4月から、日本で一年間の留学生活が始まった。最初の頃、日本の大学について何も知らなかったで、どんな授業をとったらいいか悩んだ。一年間しかないの、できるだけ悔いを残さずに興味がある授業を多くとって、充実した生活を送りたいと思った。

そのとき、ある留学生の先輩が全学共通教育のカリキュラムを渡して、こう言った。

「全学共通教育には留学生向けの日本語の授業もあるし、ほかに面白い授業も沢山ある。気に入ったら、とってみない?」

先輩の言葉をきっかけに、多様な個性との出会いも始まった。

昨年の前学期、「異文化論Ⅰ—異文化として見た日本の生活文化Ⅰ—(日本事情CⅠ)」、「日本語Ⅱ—論文の書き方—」、「英語」、「韓国語」のあわせて四つの全学共通教育の授業をとった。

「異文化論Ⅰ」というのは、留学生センターの森田先生が担当で、日本人の学生と留学生と一緒に受ける授業である。授業中、先生が日本の伝統行事などを紹介して、それからグループに分かれ、各自の国の習慣や風俗を自由に話し合うのが主な授業の流れだった。森田先生が紹介した日本の伝統行事などは、外国人の私たちにとって不思議なものが多かった。地方によりいろいろと違いもあるので、日本人の学生も楽しそうだった。グループで討論するのは一番楽しみなことだった。なぜかという、毎回違う人とコミュニケーションができるからだ。同じ日本人であっても、人によって日本の伝統行事を観察する視点が違うので、多様な観点が得られる。まして日本人、中国人、韓国人、マレーシア人、ベトナム人などが集まれば、みんなそれぞれの文化で育ててきており、考え方も人生経験も大きく相違している。多様な個性がここで出会い、夏の花火のように輝いていた。この授業を通して、日本文化、日本語の勉強、異文化との交流、また人とのコミュニケーションなどができた。これは一石二鳥ではなく、一石四鳥だった。

ほかの授業も非常に楽しい雰囲気で行われた。どんな授業であっても、ひとつの共通点があると思う。それは、自由な学術的雰囲気である。教室は、授業を一方向的なものに終わらせない意見交換の場である。学生が誰でも気軽に自分の意見が述べられる。もともと、正解というものがあるとは限らない。人により、見る視点や角度も違い、同じものに対する感想やイメージはそれぞれなのだ。個性が十分にのびられるからこそ、学生一人一人の旺盛な学びの意欲が全面的に湧いてくるのだろう。

学部の枠組みを越え、充実した環境で、多様な個性と出会えたことが、私が全学共通教育の授業に魅かれた理由だと思っている。全学共通教育は、自ら学ぶことができ、多様な個性と出会うことができる。「面白い」だけでは終わらない授業をとってみてはどうだろうか。

言いたいことがあるのに英語で言うことができないとか、前に勉強した表現なのに、いざ使おうとすると出てこない。こんな状況に追い込まれるとなおさら、「英語でどんな言い方をするのか?」とグループメンバーや授業者の発する英語に注意を向けることになるのですね。そして、「それぞれ!それが知りたかった!」「その表現は、そんな風に使えばいいんだ!」と、知りたかったに会い、それを使ってみるたびに、少しずつ皆さんの英語の力が進歩してきたのではないのでしょうか。ちなみに、この活動は81%の人が「お勧め」活動に選んでいます。

④ 授業全体が英語で進められる

・先生が授業を英語で進めていたことに最初は戸惑いましたが、後後になって考えれば、いい意味で強制的に英語に触れさせられていたことは、とても力になることだと思いました。

・月曜1限からとてもハードでした。英語はPE(体育科)だと思いました。

・月曜1限から英語で授業が進められたのはきつかったですが、聞き取ろうとする力が付いたと思います。

・こんなアクティブな英語の授業は初めてだったし、授業もずっと英語だから最初は戸惑ったけど、こんな授業形態は大学らしくて自由で良いと思った。毎回新鮮だった。

「いい意味で強制的に(?)英語に触れる!」「英語はPEだ!(つまり、英語は実技教科だ!と言いたいのかな?)」など数々の名言(?)をいただき、授業者としてもとてもいい勉強になりました。皆さんの「熱い思い」に圧倒されて、私の「熱い思い」の順番がなくなってしまいました。それは追々、授業の中で「英語」で語っていくことにしましょう。



編集後記

授業訪問シリーズは、No.10をお届けします。教育学部の巽先生が教養教育で行っている英語授業の事例紹介です。近年の大学での英語教育はずいぶん変化しました。読解力だけでなく聴解力を高めるための訓練、発音や音読の練習といった皆さんの積極的な学習参加が求められています。巽先生の授業は、先生自身の御専門(英語教育)の知見も踏まえ、そのような積極的な(active)な学習のあり方の最先端を行くものです。

もう一つの記事は、中国からの留学生の「生の」声です。教養教育の本質の一つは、専門教育では得られない学問的知見を学習・獲得するところにあります。つまり、教養教育と専門教育は「相補的」関係にあります。今回の記事では、大学という自由闊達な学問の場で、「役に立つ」スキルの学習だけでなく、異質な世界や他者を理解し、人間として知的に精神的に成長することの大切さが含意されていました。

編集責任-教養教育推進センター
副センター長 中川 一雄



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。



教養教育推進センター長 古田 善伯

自立的学習を習慣化しよう

皆さんは「学士力」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。これから、皆さんが大学で勉強する際、たびたび耳にするようになると思います。「学士力」というのは、21世紀市民として活動するのに必要な要素を包括した用語です。つまり、大学で習得すべきことは専門的な知識・理解だけでなくコミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決力、自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、創造的思考力などがあり、これらを総称して「学士力」と表現しています。そのために、大学では授業での学習はもちろんのこと授業以外にも課外活動やボランティア活動等に積極的に参加し、学士力の向上に努力することが求められます。この「学士力」を向上させるためには自立的に学習することが重要ですので、日々の学生生活において自立的に学習する習慣をしっかりと形成してください。

全学共通教育を受けて

教育学部 国語教育講座 香田 紫帆

私は岐阜大学の教育学部に入学して、教育学部で開講される講義以外に全学共通教育という講義があると知り、自分の専門としたい分野を学ぶ大学でなぜそのようなものがあるのか不思議に思いました。しかし全学共通教育は多種多様な講義があり、その中から自分で選択できるので、自分の専門ではない興味のある分野を詳しく学ぶいい機会になりました。全学共通教育がなければ、学ぶことがなかった内容も多くあります。

特に印象に残っている講義は太極拳です。今まで太極拳には全く触れたことがなかったのですが、どんなものだろうという好奇心で、この講義を選択しました。やってみてすごくおもしろかったし、思ったよりかなり体力を使うことが分かりました。とてもいい経験になりました。もしかしら今後、この講義をきっかけに太極拳を始めることがあるかもしれません。また、岐阜方言の授業も印象的だった授業の一つです。私は岐阜出身ですが、何気なく使っている岐阜の言葉についてなかなか考えたことがありませんでした。この講義でたくさん岐阜弁について学ぶことが出来ました。自分が今までいかに意識せずに言葉を使っていたか分かり、言葉の面白さを実感しました。

また、全学共通教育では他の学部の学生との接触が多いので普段交流のない学生とも仲良くなることが出来ます。他県の話もその県の学生から聞けるので、自分の県にはない言葉や文化を知ることができ、とても興味深かったです。全学共通教育は自分の視野を広げる場だと思います。友達と合わせて講義をとるのも楽しいかもしれませんが、自分の興味を優先して受講することをおすすめします。一見自分とは関係ないと思っていた内容が、意外な時に生活や他の講義で生きてくることもあるのではないのでしょうか。

全学共通教育の意義

地域科学部 地域科学科卒業生 森田 真弥

全学共通教育とは、学部の垣根を越えた生徒たちが集まり、各々の興味がある分野の授業を履修する、という形態で講義が行われています。その特色は、学部生のみで受ける専門科目の講義にはない「各人の興味が優先される自由さ」であると、私は思っています。

私が全学共通教育を受けていたのは今から3年ほど前にさかのぼりますが、今になって考えてみれば、自分の興味が向くままに、実に自由に他学部の教授の講義を思う存分聞くことができた期間というのはあの時だけだったように感じます。私の所属する地域科学部は、岐阜大学にある他の学部よりも全体的な専門性は低く、ある程度自分の好きな学問を年次を重ねても継続できますが、やはり、全学共通教育の自由さには劣るような気がしています。全学共通教育では、今の自分の専攻では全く生かす場のない講義も興味のままに受けていました。現に、その知識は全く専攻では生きていませんが、私は損をしたとは感じていません。何故ならば、自分の知的好奇心が存分に満たされて満足しているからです。純粋に、「学ぶこと」が、面白かったからです。

私が思うに、全学共通教育とは一般教養を学ぶ場であると同時に、受験を終え、大学に入って間もない新入生に自らの知的好奇心のままに「学ぶ」ことの楽しさを教える役割を担っているのです。これから全学共通教育を履修しようとしている方は、「必修単位ギリギリの分だけ。」と言わず、是非興味のおもむくままにたくさん講義を受けて下さい。それが自分の目指している専攻に全然関係のない講義でも、良いじゃないですか。シラバスを開けば数多くの講義のその中に、貴方に「学ぶこと」の楽しさを教えてくれる講義が、必ずあります。

正しい日本語を使いましょう!

● 今回は慣用表現、死語になりつつあることば、外来語を取りあげてみました。

1. 次のカタカナの部分の漢字(一字)に直してください。意味はわかるよね。

- | | | | |
|----------|----------|---------|---------|
| ①イを唱える | ②サバを読む | ③シラを切る | ④タカを括る |
| ⑤ラチが明る | ⑥ホゾを噛む | ⑦クビスを返す | ⑧テツを踏む |
| ⑨ゲンを担ぐ | ⑩ドウに入る | ⑪タテを突く | ⑫ホコを納める |
| ⑬ハナであしらう | ⑭タモトを分かつ | ⑮マが差す | |

2. ちょっと古いことばです。分かりますか。

- | | | | |
|--------|---------|-----------|-------------|
| ①衣紋掛け | ②キセル | ③手風琴 | ④火熨斗(ひのし) |
| ⑤寝巻 | ⑥匙(さじ) | ⑦細君 | ⑧帳面 |
| ⑨駄賃 | ⑩蚊帳(かや) | ⑪襦袢(じゆばん) | ⑫ご不浄・廁(かわや) |
| ⑬シャボン | ⑭夜なべ | ⑮ピロード・別珍 | ⑯甘藍(かんらん) |
| ⑰おみおつけ | ⑱お目文字 | ⑲別嬪(べっぴん) | ⑳自墮落(じだらく) |

3. 最近流行りの外来語です。分かりやすい日本語に言い換えてください。

- | | | | |
|----------|-------------|------------|----------|
| ①アーカイブ | ②アカウントビリティー | ③アセスメント | ④アナリスト |
| ⑤イノベーション | ⑥コンソーシアム | ⑦サーベイランス | ⑧スキーム |
| ⑨スキル | ⑩ストラテジー | ⑪タスク | ⑫デリバリー |
| ⑬ハイブリッド | ⑭フィルタリング | ⑮ベンチャー | ⑯ミッション |
| ⑰モラトリアム | ⑱リテラシー | ⑲ワークシェアリング | ⑳ワークショップ |

- ①異(相手と違う意見を述べる) ②鯖(得をしようと数をごまかす) ③白(知らないふりをする) ④高(見くびる) ⑤埒(はかどる) ⑥臆(悔いること) ⑦踵(もと来た方へ引き返す) ⑧轍(先人と同じ失敗をする) ⑨験(あるものに前途のよしあしを託す) ⑩堂(すっかり手慣れて身につけている) ⑪楯(反抗する) ⑫矛(戦闘をやめる) ⑬鼻(相手のことばに、ろくに变じもせず冷淡に扱う) ⑭袂(人との縁を切る。わかれる) ⑮魔(悪魔が心に入り込んだように、普段では考えられない悪念を起こす)
- ①ハンガー ②刻み煙草を詰めて吸う道具。間がラオという竹で出来ていることから、中間無賃乗車することをもう) ③アコーディオン ④底の平らな手鍋状のものに炭火を入れて燻をのばす道具。昔のアイロン ⑤夜寝る時に着る衣服 ⑥スプーン ⑦妻 ⑧ノート ⑨駄荷の運賃。子どもへのお使い賃 ⑩蚊の侵入を防ぐため寝床に吊り下げて覆うもの。「蚊帳の外」という慣用句あり。 ⑪はだぎ ⑫トイレ ⑬石鹸 ⑭夜にする仕事 ⑮ベルベット。コーデロイ ⑯キャベツ ⑰(女房ことば)味噌汁 ⑱(女房ことば)お目にかかること ⑲美人 ⑳だらしないさま
- ①保存記録 ②説明責任・責務 ③影響評価 ④分析家 ⑤技術革新 ⑥共同事業体 ⑦調査監視 ⑧計画・枠組み ⑨技術 ⑩戦略・作戦 ⑪作業課題 ⑫配達・宅配 ⑬複合型・異種混合 ⑭選別 ⑮新興企業 ⑯使命・使節団 ⑰猶予・猶予期間 ⑱読み書き能力 ⑲仕事の分かち合い ⑳研究集会・参加型講習会

編集後記

新学年、新学期が始まります。新入生の方々は新たな勉学への意欲や志を胸に抱いていることでしょう。そういうあなた達を当センターは全力で応援します。これからの大学での勉学に資するよう、あなた達が少しでも「賢く」なって社会に出られるよう、当センターも授業担当教員も力を注ぎます。あなた達も頑張って勉強する努力を惜しまないでください。

「アンゲリア」の今号では、教養教育推進センター長から「自立的学習を習慣化しよう」という趣旨で、大学での学習(学力)の向上に努力することが求められています。日々の学生生活において、自立的に学習する習慣を形成することがあなた達に求められているのです。

他の記事として、先輩達から全学共通教育の講義についてのアドバイスやクイズ形式の「正しい日本語を使いましょう!」を掲載しました。読んでみてください。案外役に立ちますから。

4月早々、入学式の前に「全学共通教育ガイダンス」で初年次を中心とした学習について説明があります。授業開始前に、Web上で「履修申請(登録)」手続きを行います。それもガイダンスで説明されますから心配には及びません。ただ、登録しないと授業を受けることが出来ませんので、ガイダンスでは説明をしっかりと聴いてください。初めてのことばかりで戸惑うことが多いかもしれません。不明な点や疑問があれば、遠慮なく「全学共通教育事務局」を訪ね、どんな疑問でも尋ねてみてください。こういうことをすることが「自立的学習」の第一歩なのです。さあ、始めましょう!

編集責任: 教養教育推進センター
副センター長 中川 一雄



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。



授業訪問シリーズ No.11

授業科目名：「メディア論I-メディアの特徴・歴史・現状・課題-」

授業担当教員：野原 仁(地域科学部)

メディア論Iは、担当教員の様々な工夫で毎年学生に人気のある授業です。

今年度もWeb履修申請で418名もの学生が受講を希望し、野原先生自ら4年生と1年生だけで150名に抽選されました。

さて、今回の授業訪問では、毎年受講希望者が多い理由を探るため、「Web履修申請に関するアンケート」を行いました。

その結果「なぜ、この科目を履修申請しようと思いましたか。」との質問には、大半の学生がWeb掲示板や先輩等

からの情報を参考にして申請した、という回答が多かったようです。(回答者の6割ほど)

また、「この科目についてどのような情報がありましたか。」との質問には、「単位が取りやすい講義だった。」という情報が多かったのにはびっくりしました。

野原先生のシラバスでは、「授業のねらい」欄に次のように記載されていました。

「現代社会に生きる私たちにとってマスメディアから得る情報は、日常生活を送る上で必要不可欠だけでなく、私たちの考え方や生き方にも大きな影響を与えている。したがって、マスメディアから得る情報の特質や傾向、さらには各メディアの特性や歴史などを正しく理解しなければ、自己を取り巻く社会環境の認識や自己形成に致命的なダメージを与えかねない。本講義では、現代社会でマスメディアが果たすべき機能と責任について、政治・経済および日常生活や人間形成との関係性の中で理論的に把握した上で、メディアの特徴・歴史・現状・課題と、あるべき姿について、具体的な事例をもとに実践的に学び、自分で問題点を探ることを目標とする。」また、シラバスの「受講者へのメッセージ」では、「学ぶ意欲がある人だけ出席して下さい。そうでない人は、課題をやることで、少しでもメディアに関する知識を身につけて下さいね。また、さまざまな決まり事がありますが、詳細は初回時に説明します。」とありましたので、どのように講義を進められるのか興味をもって授業訪問しましたが、今回の授業訪問が7回目と8回目で授業計画のちょうど中間の講義であり、メディアの歴史とマスメディアの現状と問題点についての授業が行なわれていました。

授業は、パワーポイントのスライドを中心に分かりやすく、いろいろな話題で学生たちを飽きさせない様に進められていました。しかし先生は、無駄口をしゃべって他人の受講を「妨害」する学生には厳しく、教室内から即座に退室させていました。

このように、学生達が集中力を切らさないように講義を進める野原先生の授業でした。

なお、オフィスパワーや連絡先の居室・電話番号・メールアドレスもはっきりとシラバスに記載されていますので、「質問等もしやすく、考えや人柄などが堅実で信用出来る」と学生たちが考えるからこそ、毎年多くの履修希望者が出るのだな、とも感じたものでした。

(全学共通教育事務室・正村隆弘)

ー「メディア論I」の講義について、野原先生が熱い思いを語りました。ー

この授業は全学的に「楽勝科目」と知られており、毎年多くの学生が履修申請をします。「楽勝科目」とされる理由は、私の推測では、①出席をとらない、②課題が簡単である、ことに尽きるのではないのでしょうか。私自身は、この授業が「楽勝科目」とされることについては、まったく気にしていません。もちろん、「学生の人気取りのために、わざと楽にしているんだろう」と思う人もいるでしょうが、別に学生から人気があっても、給料が上がるわけでもなく、そんなことはまったく考えていません。先に挙げた「楽勝科目」とされる2つの理由には、それぞれ私のこの授業に関するポリシーがあります。まず「出席をとらない」のは、大学での勉強は強制されてやるものではなく、あくまで自主的・自律的に行うのが原則だと私が考えるからです。つぎに、「課題が簡単である」ことですが、高校までの学習ではメディアに関することはほとんど習っていないため、この授業では内容もそうですが、課題に関しても、メディア論の初歩中の初歩といったものにせざるを得ないからです。

ただし、あえて言えば、学生の人気取りのためではありませんが、意図的に、出席をとらず、課題も簡単にしている側面は否定できないかも知れません。それは、授業を通して自分が伝えたいことを、できるだけ多くの学生に伝えたいからです。つまり、自分が研究しているメディアに関するさまざまな知識を、一人でもたくさんの学生に身につけてもらうとともに、その知識をこれからの人生の糧にしていきたいのです。

そのために、授業で用いたパワーポイントのスライドや配布した資料は、すべて私のHPIに掲載して、たとえ出席はしなくとも、自分で学ぶことができるようにしていますし、最終課題については、授業内容をすべて復習しないと、解答できないものになっています。現実には「楽勝科目」ではないのです。

もちろん、履修登録をしたすべての学生に出席してもらい、直に私の生の姿に接してほしいと願っているのは言うまでもありません。また、そうなるよう、私自身も授業内容をよりよいものにするための努力を怠らないように肝に銘じたいと考えていますし、出席や課題を含めて、どのように授業を行うのがもっとも望ましいのか、これからも模索していきたいと思います。

最後に、このメディア論IIに限らず、私の担当する授業に共通するルールを紹介したいと思います。それは、「授業に出席して学ぶ権利をすべての学生が持っており、他の学生の学ぶ権利を侵害する、私語などの行為は決して認められない」というものです。いつも授業中におしゃべりしている学生の皆さん、あなたは勉強したい他の学生の権利を侵害しているのですよ。そのことに早く気づいてくださいね。

「何でも相談室」学生相談員として

地域科学部 4年 川村 詩織

今年度の「何でも相談室」の学生相談員の1人である、地域科学部4年川村詩織です。学生相談員とは、新入生を対象に、全学共通教育科目の履修の仕方や、サークルのロコミ、アルバイトの情報などといった学生生活にプラスになる情報を各学部先輩に聞くことができる場です。

大学生になると、大学内での行動も授業のとり方も自分次第になるため、戸惑うことが多くあると思います。そのため、このような「何でも相談室」という何でも聞くことができる機会があることは、学生にとってありがたいことであると思います。

私は今年初めて相談員になったため、うまく答えられるか、他学部の学生相談員の人としっかり交流できるのかとても不安でした。しかし他学部の相談員の人は本当にいい人達で、話しやすい人達であると感じました。他学部の相談員の方と会話することも相談室にいるときの楽しみでした。

実際に学生相談員として活動し感じたことは、この「何でも相談室」がうまく機能していないところだと思えます。私が新入生の話を聞いたのは、学部ごとのガイダンス時のみでした。

「何でも相談室」はまだまだ改善の余地は多くあると思います。私を感じた改善点は、相談室が開いている時間です。相談室が開いているのは、月曜と火曜が16時から18時、水曜が13時から17時です。相談員の負担は増えてしまっていますが、昼休みにも相談室を開くことができたらいいのではないかと思います。

改善点があるにせよ、この「何でも相談室」は学生には必要な場であると思えます。改善点を見つけ出し、相談室の質の向上を目指すことで、より新入生などの多くの学生に優しい場になればいいと思います。

ようこそ!学習支援室へ!!

教育学部 2年 安田 千夏

皆さん、こんにちは。はじめまして!私は今年から学習支援室での学生相談員をしています。実は、恥ずかしながら、私はこの相談員という存在を自ら引き受けることで知りました。新入生のときに知っていたらもっと活用できたのに…と後悔しています。そのため新入生の皆さんには是非利用していただきたいです。

学習支援室のメリットとして私が皆さんに一つ言えることは、実際に自分が経験してきた成功談あるいは失敗談からアドバイスをあげられるんじゃないかなあと思います。やはり大学というところは高校までとは違い複雑な履修や単位を自己管理しなくてはなりません。私も当時これはとても苦労しました。これで必要単位は足りているのかどうか?どの授業を履修すればいいのか?そんな時、実際に経験してきた先輩方にお話が聞けたらどんなによかったらうと思いました。友達同士では皆さん初めてのことなのでなかなか解決できない部分があるかと思えます。そこでこの学習支援室を是非利用していただきたいです。私は、今回この相談員を引き受けるにあたって、少しでもそんな新入生の方々の悩みや心配事を解消する手助けができればなあと思いました。

更にこの学習支援室は履修や単位などのことだけではなく、大学生活におけるいろんな「悩み」も解決できるような手助けもしていくつもりです。私は他の相談員の方と一緒にお仕事させてもらうことによって学部・学年問わずいろいろな方とお話する機会が増えたのでとても嬉しいです。新入生の皆さんもコミュニケーションの場としてこの学習支援室を利用してくださいのでもいいと思います。

せっかく大学に入学したからには充実した大学生活を送れるように、私たちも全力でサポートします!気軽に相談室に足を運んでみてください!!お待ちしています!!!

編集後記

「アンゲリア第12号」をお届けします。暇を見てお読みいただければ幸いです。今回は興味深い記事が載りました。一つは、あえて極端な表現をとられたのですが、授業訪問で紹介された野原先生の言葉です。「大学での勉強は強制されてやるものではなく…自主的・自律的に行う」ものだという指摘です。もう一つは学生相談員の村橋さんの言葉で、「全学共通教育の魅力的な点は『自由』に履修するところにあるという部分です。一昔前の学生たちと違って、ここ数十年間は、授業に(だけは?)真面目に(?)出席する学生が多いことに気づいていました。教員サイドも、シラバス内容を明瞭にし授業計画や学習目的の明示に努めてきました。しかし、大学は授業やカリキュラムといった「製造工程」を基にした教育「工場」ではありません。学生たちは「付加価値を付けた商品」として社会に出される「人(的)材(料)」でもありません。大学は学生・教員双方の自主的・自律的かつ自由な学習の時間・空間として、人間としての必要な「知性」を涵養する場です。大学にとって最も基本的なことを考えさせる記事だったように思います。

編集責任:教養教育推進センター 副センター長 中川 一雄

『素晴らしきCAMPUS LIFE』

教育学部 2年 三浦 小百合

こんにちは。「なんでも相談室」相談員の三浦小百合です。皆さんは、どんな大学生活を送っていますか?毎日、充実していますか?

入学当初の私は今思うと、なんだか物足りない生活をしていました。大学は中学や高校と違って、近所の先輩もいなければ、いつも一緒に授業を受けるクラスもありません。また、部活やサークルに入っていないと同じ学部以外の人と知り合う機会もなく、そういった所属がないとイベントに参加するきっかけがありません。高校の時と比べて宿題も少ないので、自主的に勉強していなかった私は学習機会を失っていました。

この1年で分かった事は、大学では自分で動かなくては何も始まらないということです。プラスに捉えると、自分が求める環境を自分の意思で創り出すことができる場所でした。さらに、人生の中で最も自由に時間を使えるのが大学生活だと気づいたのです。

現在、私の大学生活はたくさんのアドバイスや情報を得ることで、より充実してきたように思います。色々な学部・学科、幅広い年齢層、様々な国籍、自分と異なった価値観を持った人々との出会いは自分の視野を自然と広げました。おかげで今はやりたいことが明確となったので、徐々にステップを踏んで具体的に動き出しています。

私事ばかり話してしまいましたが…皆さんの素敵なCAMPUS LIFEのお手伝いができればと思い、後期履修申請期間も「なんでも相談室」相談員として、全棟1Fで待っています!!勉強のこと。サークルのこと。バイトのこと。車校のこと。雑談でも構いませんよー。「AIMS-Gifu」の掲示板やメールなどからも相談できるようになると、もっと気軽に「なんでも相談室」を利用できるかもしれませんね。これからも「なんでも相談室」が皆さんのお役に立てる場になることを願っています。

共に素敵なCAMPUS LIFEを過ごしましょう☆

全学共通教育の魅力

地域科学部 3年 村橋 里保

私が岐阜大学に入学したとき、履修について一番悩んだのは全学共通教育の科目でした。専門の科目は、取らなければいけない科目が決まっていたり、履修モデルがあったりと、自分で何を取るべきか考えたり、悩んだりすることはそんなにないでしょう。しかし、全学共通教育では、膨大な数の講義の中から、必要単位数を満たすように自分で考え、選ばなければなりません。新入生の皆さんも、シラバスの厚さに驚いたのではないのでしょうか?

私は、全学共通教育の科目を選ぶとき、シラバスを見て面白そうだと思う科目に○をつけて、そのページの角を折っていきました。すると、自分の折ったページの多さに驚きました。高校では教えてくれないような、岐阜の方言についての講義や、ギリシャ神話についての講義、生物の生態でも、鳥だけに特化した講義など、面白そうな講義がたくさんありました。そのときに気づいたのは、自分が理系の講義にも○をつけていたことです。私は今まで、理系が苦手で、自分は文系の人間なんだと思っていましたが、実際、化学や宇宙についての講義を受けてみると、「おもしろい!」とか、「もっと知りたい!」と思うようになっていました。この、全学共通教育を通じて私は、理系科目の面白さを発見することができました。

このように、全学共通教育の魅力的な点は「自由」ということだと思います。高校で、文系と理系に分けられて以来、「自分は理系だから文系は無理!」というように文系科目や理系科目に苦手意識を持っている人は多いと思います。しかし、人は理系と文系に分けられるほど単純なものではありません。文系でも、自然科学の講義を取らなければいけないし、理系も、人文科学の講義をとらなければいけません。どうせ取らなければいけないのなら、ちょっとでも面白そうだった講義を取ってみてください。きっと、今までの苦手意識を吹き飛ばしてくれるでしょう。



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。

国立大学法人岐阜大学
教養教育推進センター

授業訪問シリーズ No.12

授業科目名: 社会の中の看護

授業担当教員: 箕浦とき子, 小松妙子, 足立みゆき, 滝内隆子, 松波美紀(看護学科)



今回は、「社会の中の看護」を聴講してきました。この科目は、「いつもは当たり前で過ごしている日々の生活を一度立ち止まって自分たちの健康を確認し、看護の視点から健康を考える」というねらいのもと後学期火曜日2限に総合科目として開講されています。訪問した回の講義は箕浦教授の担当で「高齢社会の看護」と題し、高齢者の理解と看護について高齢化社会の現状を数値や



グラフで示しながら具体的に学ぶという内容で、若い世代とは違った高齢者の疾病の特徴についても詳しく解説されました。

何より私が感じたのは「高齢者に関心を持ち理解してほしい」という箕浦教授の真摯な気持ちでした。まさに社会に巣立っていく若者が学ぶ、社会生活に必要な知識としては、ふさわしい科目であるように思いました。授業中は、私語も聞こえず授業に集中している学生さんたちの姿が見受けられました。ただ、前の方の席が多く空いており、先生から「前の席に来ませんか?」との呼びかけに答える学生さんがいなかったことがすこし残念に思ったりです。



受講生74名のうち半数近くが男子学生で、「意外と多いなあ」という印象を持ちました。ジェンダー役割の見直しが見られる現代にあって、男性も看護や介護には無関心ではられません。熱心に受講する男子学生たちに、いささか頼もしさを覚えました。高齢化社会やその問題については、新聞やさまざまなメディアを通じてぼんやり知っていたものが、数字やグラフで具体的に解説されたことでより鮮明になったのではないのでしょうか。それと同時に、高齢社会に向けての危機感や多くの問題も理解出来たと思います。

箕浦教授は、授業時間の残り15分を「感想・意見」提出の記述時間に充てられました。学生さんたちからは、今後学ぶであろう専門分野と照らし合わせた率直な感想や、高齢者を自分や家族に置き換え「大切にしなければならない」と再認識した意見も多く寄せられていました。

また、この科目は、今年度より厚生労働省で主催する「認知症を知り地域をつくる」キャンペーンの一環として「認知症サポーター100万人キャラバン」による「認知症サポーター」を養成する講座として認定されています。サポーターの証として「オレンジリング」が希望者に配布されることとなりました。認知症については、9回目以降3回に亘り松波准教授より講義がある予定です。

今後も、多くの受講生が高齢化社会で必要とされる知見を持ったサポーターとして、お年寄りたちが社会で安心して暮らせるまちづくりに係わる姿が将来的に近くでも見られることを期待させられました。

全学共通教育事務室 堤 久美子



・箕浦教授は、授業中にブレイクタイムとして、「高齢者との対応は自分の気持ちに余裕を持つことが大切ですよ」と自分で撮影された美しい景色を見せていただき和ませていただきました。(撮影場所・横蔵寺(左)弘前城(右))

AIMS Tips

No.1

「Tips」とは、コンピュータやソフトウェアなどを利用する上で役立つ「豆知識」や「小技」のことです。今後数回に亘って連載していきます。

AIMS-Gifuを使う際のWebブラウザと個人情報の管理について

履修申請やレポート提出など、みなさんが大学で利用するAIMS-Gifu(エイムズ・ギフ)は、Webアプリケーションと呼ばれるものの一つです。AIMS-Gifuには、インターネットに接続されたコンピュータからWebブラウザを使用してアクセスします。

現行のほとんどのパーソナルコンピュータ(Windows xp/Vista/7, Mac OS Xなどを搭載しているもの)にはインターネットに接続する機能とWebブラウザが含まれていますので、インターネットに接続できればAIMS-Gifuを利用することができます。

インターネットへの接続については、学内の端末(総合情報メディアセンター、学内の教育情報システム教室及び図書館などに設置されています)、自宅のインターネット環境、学内の無線LAN、公共のインターネット接続サービスなどが利用できます。

Webブラウザについては、Windowsの場合はInternet Explorerが標準でインストールされており、これが利用できます。Mac OS Xに標準のSafariは、若干機能が制限されますが利用は可能です。筆者は、Windows, Mac OS Xともに利用可能なWebブラウザとしてMozilla Firefoxを推奨します。その理由として、AIMS-Gifuの機能をフルに利用できることはもちろん、表示が高速であること、セキュリティの面でより安全であることなどがあげられます。

また、どのブラウザを用いる場合でも、**最も注意すべきことは、ログインIDとパスワードの管理**です。とりわけ学内設置のコンピュータを他の利用者と共有して使うような場合、ログインIDやパスワードなどの情報がブラウザに残っていると、「なりすまし」の被害に遭うことがあります。ブラウザに残された情報や履歴等は、必要に応じて削除するよう心がけましょう。ブラウザには、こういった情報を残さないようにする設定があります。

例えば、

- ・ Windows版Firefox(3.5.5)の場合: [ツール]→[オプション]から、[プライバシー]タブを選択すると、履歴等に関する情報を詳しく管理できます(図1参照)。
 - ・ Internet Explorer 8の場合: [ツール]→[インターネットオプション]から、[プライバシー]タブをクリックして「記憶させない」に設定することをお勧めします(図2参照)。他人とコンピュータを共有する場合は、この設定を確認してください。
- 補足: 図2の「インターネットゾーンの設定」についてプライバシーの設定を高くすると安全性は保たれますが、ユーザIDやパスワードなどブラウザに保存される情報が少なくなり、不便になります。逆に、設定を低いほうにすると、ユーザIDやパスワード情報はブラウザに保持されますが、プライバシー情報が他のWebサイトなどに読み取られるなどのリスクが生じます。共有使用の場合は、「中-高」の設定をお勧めします。

以上、各自の利用状況に合わせて設定してください。

また、いずれのブラウザを用いる場合でも、常に**最新のバージョン**にするようにしましょう。

- ・ Windows版Firefox(3.5.5)の場合: [ヘルプ]→[ソフトウェアの更新を確認]で最新版に更新できます。
- ・ Internet Explorer8の場合: Windows UpdateまたはMicrosoft Updateを使用します。

不明な点がある場合には、総合情報メディアセンター・松原(e-mail: masa-aims_support@gifu-u.ac.jp) まで遠慮なくお尋ねください。

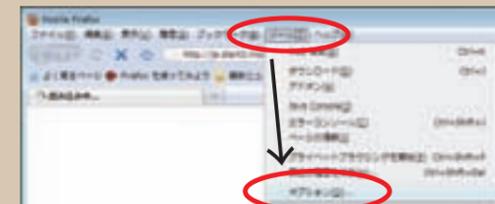


図1

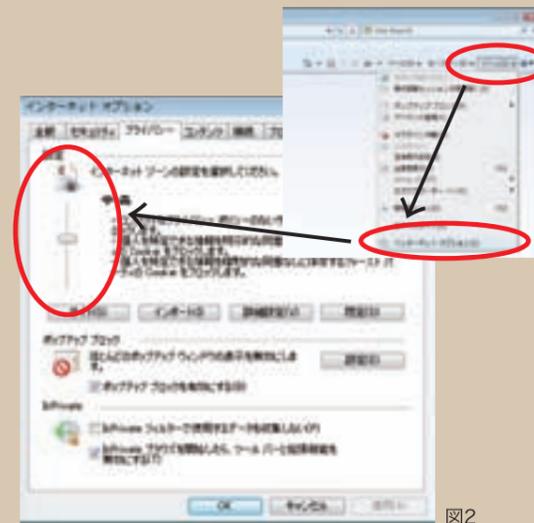
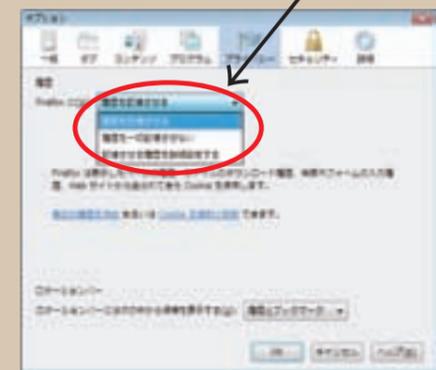


図2

編集後記

「アンゲリア」第13号をお届けします。今回も興味深い記事が二つ載りました。一つは授業訪問シリーズの「社会の中の看護」という科目紹介です。教養教育の場合、いつ役立つかわからない、あるいは、実際の生活の中でどういう意味を持つものはわからない、というような批判(?)も耳にしますが、今回は、社会で生きる上に必要な「まさに役に立つ」授業紹介だったと思います。教養教育には、このような社会的知と人間的知の二つの知性のシナジー教育が求められているのでしょうか。

もう一つは、新しい連載「AIMS-Tips」です。ブラウザを使用する際に注意すべきこと(IDやパスワード、履歴の管理など)が説明されています。参考にして下さい。

編集責任: 教養教育推進センター 副センター長 中川 一雄



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。



教養教育推進センター長 古田 善伯

「キャンパスライフを楽しみながら高度な専門的職業人としての力量をアップしよう」

岐阜大学は、教養のある高度な専門的職業人を養成することを目的として、様々な教育活動を進めています。高度な専門的職業人として社会で独り立ちして活躍するためには、大学在学中に専門的な知識・技能の修得だけでなく、コミュニケーション能力、論理的思考力、問題解決力、チームワーク、リーダーシップ等の力量向上、そして自立と責任のある行動が求められます。これらの能力は「学士力」とか「社会人基礎力」として総称されていますが、これらの能力は大学の授業以外にも、課外活動、ボランティア活動等を行うことにより総合的に修得されると考えています。

本学には、課外活動として運動系サークルや文科系サークルが多数あり、そのための施設も充実しているので、自分の好みに合うサークルに加入して自分の能力を大いに発揮し、コミュニケーション能力、チームワーク、リーダーシップ等の能力を修得してください。

また、大学の外で行われている様々なボランティア活動にも積極的に参加してもらいたいと思います。大学の生活は授業以外にも多様な経験ができる場所ですので、岐阜大学のキャンパスライフを楽しみながら、高度な専門的職業人としての能力を高めて社会で活躍してください。

AIMS Tips

「Tips」とは、コンピュータやソフトウェアなどを利用する上で役立つ「豆知識」や「小技」のことです。今後数回に亘って連載していきます。

No.2

掲示板について

掲示板

Web掲示板は、インターネットのサービスの一つとして提供されている仕組みの一つです。私たちは、Web掲示板にメッセージを書き込み、Webページとして公開したり、意見交換等を行うことができます。AIMS-Gifuにも、コースごとに掲示板が用意されています。

AIMS-Gifuの掲示板の目的として、受講者どうし、また、指導教員と受講者との間のメッセージのやりとりや、レポート等の提出などがあげられます。筆者の担当する講義に、受講者数が70名程度のもがあります。このような講義においても、講義内容の質問などに極力個別に対応できるよう努力をしていますが、人数の都合上困難なこともあります。このような場合、受講者のみなさんから掲示板を介して質問や意見を述べてもらうことで、コミュニケーションの機会をより高められます。また、受講者間のコミュニケーションもより向上することが期待できます。

AIMS-Gifuでは、掲示板を利用するにあたっての用語があります。

掲示板: コースごとに存在するWeb掲示板です。コース内の左のボタンから選択します。

フォーラム: 掲示板の中にある、テーマごとのまとめです。通常、指導教員によって作成されます。

スレッド: フォーラム内で作成される話題ごとのメッセージが繋がったものです。

あるメッセージに返信することにより次々と伸びてゆきます。

受講者がスレッドを新たに作成することができる場合もあります。

メッセージ: 利用者が投稿する個々の話題の内容です。文字だけのメッセージだけでなく、画像やファイル添付を行える場合もあります。

メッセージを読む

コースに入り、左の「掲示板」ボタンをクリックします(A)。このとき、フォーラムのタイトル(B)とともに、フォーラム内の総投稿数(C)、未読の投稿(D)、総参加者(E)が表示されます。それぞれ、投稿されているメッセージの総数、そのうち自分が読んでいないメッセージの数、投稿した利用者の数が表示されます。



右のフォーラムのタイトルをクリックします。このとき、スレッドのリスト(F)とともに、それぞれのスレッドの未読の投稿数(G)、総投稿数(H)などが表示されます。

スレッドのタイトル(I)をクリックします。スレッド内のメッセージのリスト(J)が、返信された状況に応じて表示されます。

メッセージのタイトル(K)をクリックすると下部(L)にメッセージが表示されます。同時に、メッセージが読まれた回数の合計(M)、自分が読んだ回数(N)などが表示されます。

メッセージ欄右上部の「前の投稿」(N)または「次の投稿」(O)をクリックすると、スレッド内の前後のメッセージに移動できます。

なお、フォーラムあるいはスレッドへの購読が許可されている場合、フォーラムやスレッドに投稿があったときにメールで通知してくれる機能があります。購読の設定を有効(P)にしておくと、メッセージの投稿があったことをAIMS-Gifuにログインすることなくメールで知ることができるので便利です。

メッセージへの返信

投稿されているメッセージを上記の手順で表示します。

返信ボタン(Q)をクリックします。

件名(R)、メッセージ(S)を入力します。件名は自動的に「返信: (元の件名)」のようになりますが、必要に応じて変更してください。使用するWebブラウザにより、メッセージ欄にはビジュアルテキストボックス(T)を使用できます。簡易的なワードプロセッサのように、文字等を装飾することができます。

必要に応じて、ファイルを添付します。「ファイルの添付」(U)をクリックし、自分のコンピュータのファイルを選択してください。選択するファイルを間違えたり、あまり大きなファイルを添付しないようにしましょう。

「送信」(V)をクリックすると、記入した内容と添付ファイルで投稿されます。「送信」をクリックする前に、内容と添付ファイルに間違いがないかどうか確認してください。設定によっては、一度投稿した内容があとで変更できないこともありますので中止してください。すぐに送信せず、記入途中でいったん保存しておきたい場合は「保存」(W)をクリックします。この場合は送信されません。あとで必ず送信しておきましょう。

おわりに

コミュニケーションの活発な掲示板は、そのものが魅力的なコンテンツです。利用者であるあなた自身が、利用者の一員として積極的に参加してください。不明な点がある場合には、総合情報メディアセンター・松原(e-mail: masa-aims_support@gifu-u.ac.jp)まで遠慮なくお尋ねください。

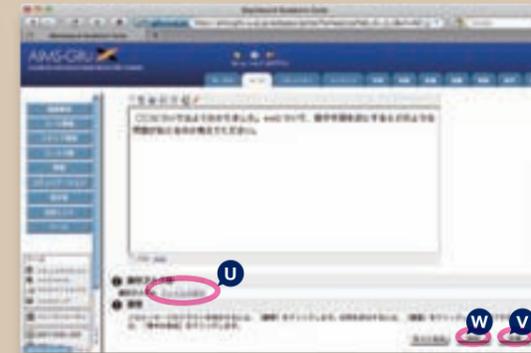
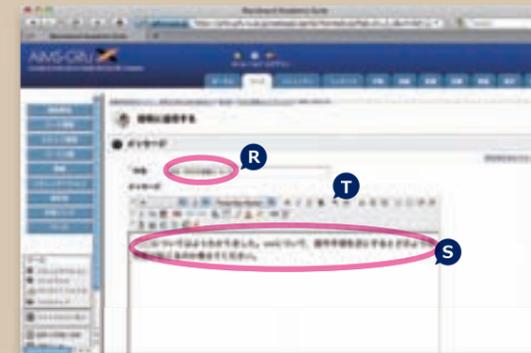
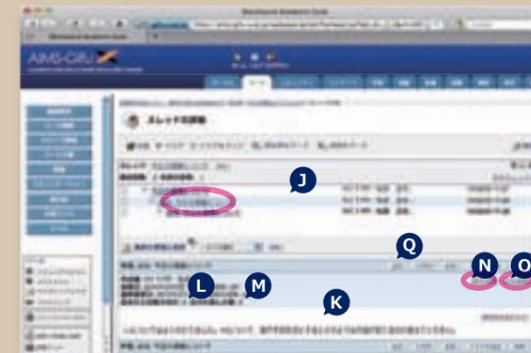
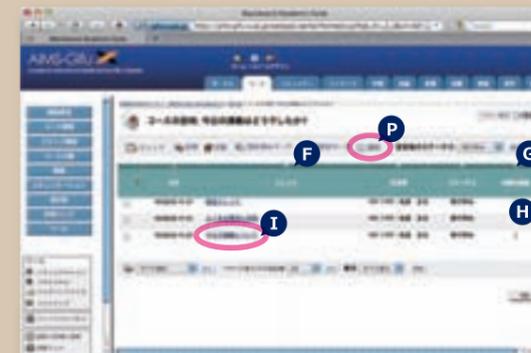
編集後記

平成21年(2009年)度最後のアンゲリアをお届けします。この3月末でセンターの兼任職を解かれますので、私にとっても最後の「編集後記」となります。そこで、大きな課題をひとつ。教養ある社会人とはどういう人を指すのでしょうか。大学で学ぶ教養とは何なのでしょう。

これらの問いは、大学にとって永遠の課題ではありますが、簡便に答えるなら次のようになると思います。教養教育とは各学部で展開される専門教育を「補完」するものであると。つまり、専門教育だけでは学べない分野や学問を教養教育が担うのであって、専門の基礎や汎用的スキル教育を第一義的に指すのではないのです。理系の学部がほとんどの岐阜大学にあっては、人間や社会に関するより広くて深い理解を促す分野、つまり、人文学や社会科学が教養教育の大きな柱となります。

たとえば、医者として社会で活躍することを思い浮かべてみましょう。先進的な医学知識や高度な診療技術を身に付けるだけでなく、今の社会の状況や人間の人生の諸相、社会の問題点や人間の苦悩などに理解が及ばなかったら、その活躍はすいぶん片落ちのものとなることお分かりですね。どうか皆さん、人間や社会のことに少しでも理解を深め、教養ある人間となってください。

編集責任・教養教育推進センター 副センター長 中川 一雄



アンゲリア



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。



教養教育推進センター長 福士 秀人

日々のなげない積み重ねが試合の時やそれぞれの作品に自然とでてくるでしょう。

大学では黙っていても何もできません。求める事によってのみ何かを得る事ができます。行動してください。一人であっても仲間であっても。自分の意志で動いてください。壁にぶつかる事もあるでしょう。無力感を感じる事もあるでしょう。そんなときこそ大学の教員や職員の人たちのところにきてください。いっしょに問題を解決し、歩んでいけるはずですよ。

教養教育推進センターにはすべての学部や研究センターの教員が参加し、教育にあたっています。学部の枠にとらわれず多くの教員に働きかけてください。自分の学部ではない友人もたくさんつくってください。要望もどんどんよせてください。世界が動いているようにセンターも明日に向かって動いています。動かすのは学生の皆さんです。みんなで学び、きわめましょう。それが貢献につながります。

自立した人間としての学生皆さんへの期待

豊かな教養と確かな専門性をそなえた21世紀型市民としての高度専門職業人が岐阜大学で学びつ皆さんに期待する人間像です。

知識や技能だけでは人間として十分とはいえません。友人とのコミュニケーションやチームワーク、独りよがりにならないリーダーシップ、マスコミなどに左右されない確かなもの見方や自分の意見をもてることなどなど、毎日をどのように過ごすかで卒業時の皆さんの力は大きく変わっているでしょう。

日々の学習も受け身ではなく、積極的に教員に働きかけてください。すべてが正しい事などありません。先人たちが築いた学問は大きく確かなもののように見えます。それであっても未知の部分はたくさんあります。それまで確かだと思われた事が、意外な発見から覆された事もたくさんあります。このような発見は若いひとたちによってなされました。なにものにもとらわれず、自分の考えを他の人たちに伝えられるようになってください。学問にとどまらずスポーツでも芸術でも同じ事がいえます。

AIMS Tips

「Tips」とは、コンピュータやソフトウェアなどを利用する上で役立つ「豆知識」や「小技」のことです。今後数回に亘って連載していきます。

No.3

「ポータル」でできること。

ポータルって？

ポータル(portal)とは、入り口や玄関という意味です。地方や建物など、まず最初に訪れる場所で、その中の様々な場所をポータルから選んで訪れるという意味があります。AIMS-Gifuでは、ログインした直後に、ポータルにアクセスします。

AIMS-Gifuのポータルの役割

岐阜大学には公式のWebサイト(<http://www.gifu-u.ac.jp/>)がありますが、こちらは学内および学外の利用者に向けての情報が用意されています。そのなかから、私たち個人が個別に必要とする情報を探するのは容易ではありません。また、個人向けの情報を不特定多数の利用者に閲覧できるようにしてしまうことは好ましくありません。

そこで、AIMS-Gifuにログインし、このポータルで個人ユーザ向けの情報を提示することで、ユーザ個人個人にあわせた適確な情報を、安全に取得することができるようになります。また、自分とは関係のない情報を見せられることも少なくなります。



ポータルで取得できる内容

AIMS-Gifuにログインすると、コースやコミュニティのタブの他、利用者に必要とされる重要な連絡事項や教育情報支援システムなど、他のサービスへのリンクが提供されます。主に画面下(「ようこそ、○○さん」から下)に、四角い枠に囲まれて表示される個々のコンテンツを、モジュールと呼びます。モジュールには、マイ連絡事項、各部局からの連絡事項、サービス、メモ帳、Google検索、電卓、New York Times への記事、英英辞書、岐阜大学公式WEBページからのお知らせ…などなどがあります。



モジュールの変更

ポータルでは、現在表示されているモジュールを選択して非表示にしたり、逆に現在表示されていないモジュールを選択して表示させたりすることができます。これにより、モジュールの整理をすることができるようになります。

現在表示されているモジュールを一時的にたたんでおきたい場合は、図の[] ボタンをクリックします。タイトルだけがポータル上に残り、内容はたたまれます。たたまれている内容を表示させたい場合は、[] ボタンをクリックします。また、モジュールそのものをポータルから削除したい場合は、[] ボタンをクリックします。モジュールを削除すると、タイトルバーも含めてポータルからは削除され、後述のコンテンツの変更で表示設定するまでは表示されません。また、[] ボタンが表示されていないものは削除できません。[] ボタンは、そのモジュールになんらかの設定が出来ることを意味しています。設定はモジュールにより異なります。

表示されていないモジュールの表示・非表示を切り替えるには、右上の[コンテンツの変更]ボタンをクリックして、右図のように「モジュールの選択」から設定します。

設定を終えたら、下部の送信ボタンをクリックします。



レイアウトの変更

モジュールの表示場所を変えて、使用頻度の高いものを上部に配置したり、モジュールの左右の位置を変更したりすることが可能です。

ポータル画面右上部の[レイアウトの変更]ボタンをクリックすると、右図のように「レイアウトの変更:ポータル」という画面に変わります。このなかの「ページレイアウトのパーソナライズ」で、列1(左側)または列2(右側)のなかのモジュールの項目を選択し、[] ボタンで上部へ、[] ボタンで下部へ移動できます。また、[] ボタンまたは [] ボタンで、列1(左側)または列2(右側)への移動が可能です。[] ボタンはモジュールの削除となります。

ポータル画面の色合いも、いくつかのテーマから選べます。テーマのパーソナライズから、好みの色合いを選んでください。

設定を終えたら、下部の送信ボタンをクリックします。



総合情報メディアセンター 松原 正也

編集後記

新学期がスタートして2ヶ月あまりが経ち、キャンパスも落ち着きが感じられるようになりました。教養教育推進センターから教養教育ニュースレター「アンゲリア」第15号をお届けします。アンゲリアは年に3回発行し、これからも学生皆さんに伝えたいメッセージや有用な情報を掲載していきます。本号は今年度第1号として、センター長からのメッセージとAIMS-Tips(No.3)をお届けします。

教養教育推進センターでは、全学共通教育のカリキュラム・時間割の検討、授業評価アンケートの実施やニュースレター・広報誌の発行などを担当しています。この4月に教育に並ならぬ熱意・決意をもった福士秀人先生をセンター長として迎え、毎日のように全学共通教育のあり方を精査しているところです。学生皆さんから見て改善すべき点多々あると思います。是非要望などを聞かせてください。

「継続は力なり」とよくいわれます。何か目標を立てて続けてみませんか。週に1冊読書をする、英語を毎日30分聴く、あるいは腕立て伏せを毎日50回するなど、何でも良いと思います。決して無理のない目標を掲げ継続することできっと成果が見えてくることでしょう。

センターでは、継続的に全学共通教育の改善に向けて努力していきます。それには、教職員のみならず学生皆さんの協力も必要です。

編集責任・教養教育推進センター 副センター長 竹内 豊英



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。

国立大学法人岐阜大学
教養教育推進センター

「学部学生から率直な意見を聴こう!」という趣旨の基に、「学生さんとの懇談会」を、平成22年6月16日(水)全学共通教育棟1A講義室において開催しました。学生代表として、各学部(医学部除く)より1~3名の合計8名が参加してくれました。センター側からは、理事、教員、職員から合計11名が参加し、シラバス、授業内容、履修、修得単位数等に関して活発な意見交換が行われました。参加していただいた学生さんを代表して今回2名から寄稿していただきました。

教養教育推進センター 主催の懇談会に参加して

教育学部国語教育講座 3年 志知由加



今回の懇談会で心に残っているのが、「教養」について話して下さったことです。

私たちの世代は、高校時代も早々にして文理が別れ、受験に必要な科目だけを特化して教わってきました。先生方の高校時代は一通り学ばれてから受験に使う教科を選択したというお話も伺い、近年の大学生とは入学時点での知識量が違うということが、全学共通の授業を行う上で問題点になっていると感じました。たとえば、私の通っていた高校は2年生の段階で文系では世界史と日本史、理系では生物と物理を選択し、選択しなかった教科に関しては知識を持たないまま大学に進学することになります。また、岐阜大学では推薦入学の学生も多く、職業科の学校出身の学生もあり、高校時代に学んだことの方向性や質も様々です。その中で、各学部共通で教養を学ぶというのは、理念としては素晴らしいですが、文系と理系で学んだことが違うという現実に対応していなければ、学生から不満がでるのは当然と感じたし、「教養」の本質—それが何かはうまく説明できませんが一に到達するには大変な道のりがあると感じました。受験に対する勉強しかしてこなかった私たちは、勉強はつくづく苦しいもの、何かを必死に覚えるものというイメージがあり、大学式の「考える」学習から『勉強』をやる意義を見つけにくくなっているのかなということを感じました。

お話を伺っていく中で、私たちが全共を受けたときから、全共の様子もまた変わってきているのを感じました。よりよい環境で学ぶことができる一年生をうらやましく感じると同時に、今、全共で授業を受けている学生の意見というのも機会があれば是非聞いてもらいたいと思います。また私たち学生も、意見箱等の自分の意見を主張する場所はあるのに十分に活用できておらず、もっと活用していきたいと思いました。

全学共通教育について

地域科学部 2年 西川美喜子



全学共通教育の見直しには私は大変な期待をよせており、私の経験や友達から得た意見を、以下にまとめます。一番の疑問は、抽選です。全共では、人気のある科目は抽選になることがしばしばあります。その抽選基準は学生は知りません。自分のぜひ取りたい科目が抽選の場合、その履修は運に任せるしかないのでしょうか。選考基準は明確に提示すべきだと思います。

改善するのを感じた点ですが、科目により単位取得の難易度の差が大きすぎる点、文系学生にとっての自然科学系科目(またはその逆)は、本当の意味での初心者向け科目が少ないことです。

単位取得の難易度については、取得の簡単な科目は、認定単位を減らしてはどうでしょうか。単位認定方法や分野によって、難易度に多少のばらつきが出てくるのは当然ですが、「多少」と表現するにはひらきが大きすぎると思います。単位を取りやすいという理由のみでその科目に学生が殺到し、学習意欲のある学生が抽選にもれてしまうという事態が発生するのです。これは全共の理念にも反しているのではないのでしょうか。

初心者向け科目については、「初歩」「概論」科目については既修の学生より未修の学生を優先し、もっと名前に見合うような講義内容にすべきであると考えます。その科目に触れる機会がなかった学生でも躊躇なく履修し、真剣に受講すれば単位を認定されるようにして欲しいのです。

この二点は多数から同意見があり、早急な改善を望んでいます。

最後に、継続してもらいたい点です。興味のある科目を専門にとらわれず履修できるのが全共です。必須単位設定は専門以外の分野へ新たな興味や生まれる機会として、継続してもらいたいと思っています。

これからも、誰でも自分の興味ある分野を学べ、新たな興味を発見できるような全共であって欲しいと願っています。そのために、学生からの声を大切に、よりよい全共を目指して行ってもらいたいのです。

AIMS Tips

No.4

“Tips”とは、コンピュータやソフトウェアなどを利用する上で役立つ「豆知識」や「小技」のことです。

「ツール」って何?

ツールの機能

個々のコースやコミュニティの中に、「ツール」というメニューがあります。今回はこのツールの機能のうち、「マイ成績表」と「タスク」について説明します。

マイ成績表について

「マイ成績表」とは、受講者がコースの中でいろいろな学習評価の結果を確認できるものです。AIMS-Gifuのオンラインテストが実施された場合には、自動的に評価の得点が計算され、確認することが可能です。成績項目については、テストはもちろん、課題・レポート、出席・学習態度等さまざまなタイプの得点項目が設けられ、個々に重みをつけて加算した加重合計として表示されますので、各自の成績評価の参考になります。

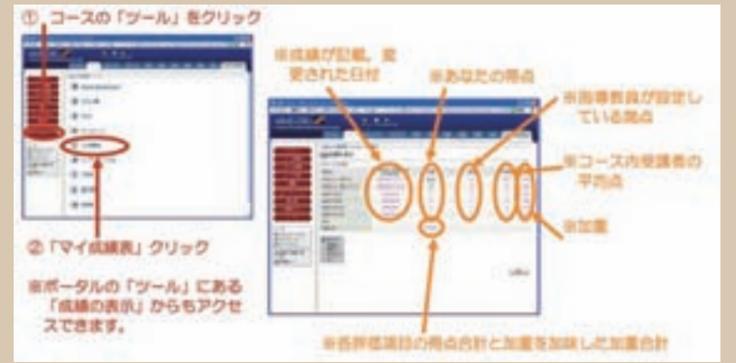
個人へのマイ成績表へのアクセスは、原則として、講義担当者と受講者本人のみとなっています。アクセスはAIMS-Gifuへのログインの際のユーザIDとパスワードに

よって制限されていますので、各自のパスワードの管理は厳重にしてください。パスワードの管理を怠って他人に知られてしまうと、第三者によるマイ成績表への不法なアクセスにつながりますので注意してください。

マイ成績表へのアクセス

マイ成績表にアクセスしてみましょう。

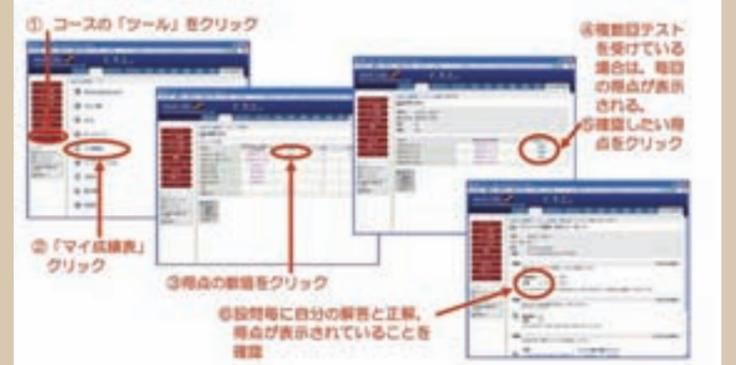
- (1) いずれかのコースにアクセスし、左のメニューから「ツール」をクリックします。
- (2) 右側の「マイ成績表」をクリックします。なお、AIMS-Gifuのポータル左上にある「ツール」メニューの中の「成績の表示」からも、各コースへの「マイ成績表」にアクセスできます。
- (3) 図のように、画面右に日付、得点、コース内の平均点、加重、加重合計等が表示されます。
- (4) 確認したら、画面右下のOKボタンをクリックします。



オンラインテストの結果の確認

コースでオンラインテストが実施された場合、マイ成績表の得点をクリックすることで詳細な解答結果を知ることができます。同一のオンラインテストを複数回受けた場合も、同様に確認できます。過去に自分がミスしてしまった問題や、不得手な項目の内容などを洗い出し、復習や最終試験の際に役立てることができましょう。

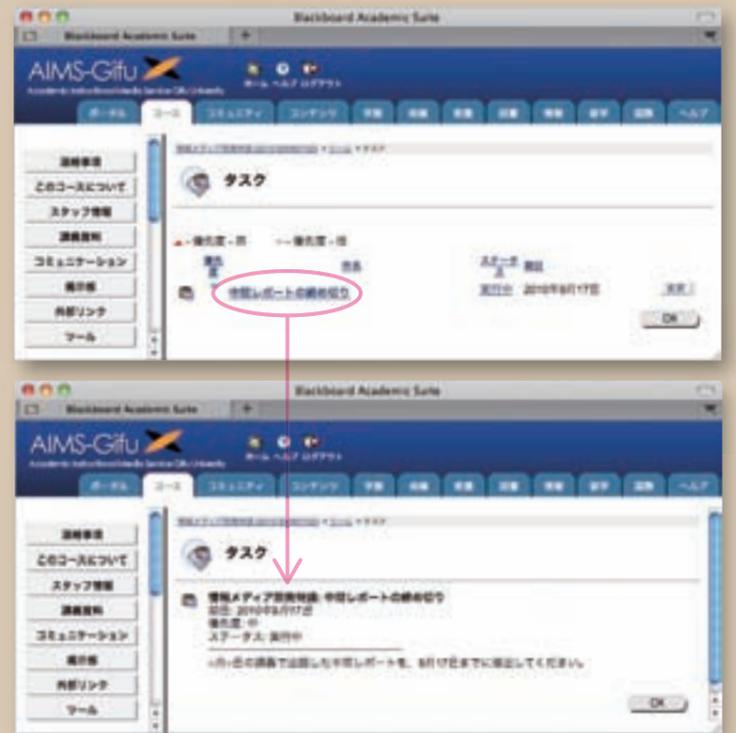
- (1) いずれかのコースにアクセスし、左のメニューから「ツール」をクリックします。
- (2) 右側の「マイ成績表」をクリックします。
- (3) 表の中に表示されている得点の数値をクリックします。
- (4) 複数回テストを受けている場合、毎回の得点が表の中に表示されます。
- (5) テストを受けた日時を確認し、その得点の数値をクリックします。
- (6) 設問毎に自分の解答と正解、得点等が表示されますので確認します。



タスクについて

タスクとは、課題・レポート、作業など、所定の期日までに行われる活動のことをいいます。コースによっては、受講期間内にさまざまなタスクが課され、AIMS-Gifuの中で設定されることがありますので、教員の指示にしたがって各自タスクの確認・処理を行いましょう。

- (1) いずれかのコースにアクセスし、左のメニューから「ツール」をクリックします。
- (2) 右側の「タスク」をクリックします。
- (3) 図のように、タスクの優先度、タスクの名称、ステータス(状況)、期日が表示されます。
- (4) タスクの名称をクリックすると、そのタスクの詳細が表示されます。ステータスが「完了」でないタスクは、ポータルのマイタスクに表示されますので、備忘録として活用できます。



編集後記



学生さんとの懇談会の頃には梅雨入りとなり、梅雨明け後からは例年になく長い酷暑を経験することとなりました。長く厳しい暑さだけでなく9月中旬に劇的に到来した涼しさには多くの人が安堵感を味わったことでしょう。キャンパスは後学期の講義が始まり、また賑やかさを取り戻しています。全学共通教育では、この後学期から新たに5つの就業力育成に関する講義が加わりました。人生観や職業観を確立できないまま卒業を迎える大学生や、就職して3年以内の離職率が以前と比べ高くなりつつあるといわれている昨今、皆さんが「社会人として生きる」ということを早い時期から意識し、自立した社会人として卒業できるようにと願って導入されたものです。一方で、日本経済の状況は依然芳しくなく、今夏のような厳しい環境の中、今年も就職活動シーズンがスタートしたようです。必ずやゴールがあると信じたいものです。

編集責任: 教養教育推進センター 副センター長 竹内 豊英



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。

平成22年10月1日、より一層の英語教育充実のため、教養教育推進センターに英語を専門とする特任准教授二名が着任されました。平成24年度から英語講義のコマ数の増加など、様々な教育改革が行われていく予定です。今後の教養教育推進センターでの英語教育の展望や、学生の皆さんへのメッセージとして、お二方それぞれより一言いただきましたので、ご紹介させていただきます。



スリカンタ・サチタナタン先生

'Towards the Future'

by Sachithanatham Sri Kantha

While I taught Scientific English at the then Faculty of Agriculture (now, Faculty of Applied and Biological Sciences) during 2000-2002, I provided a class exercise to students, to write briefly about 'What is Truth?' in English. The objective was to instill an understanding on the concept of truth. The reason for the exercise: eruption of a few scandals in Japan and in other countries, relating to scientific integrity. Among the 80-odd responses that I collected, quite many were stimulating, entertaining and thought-provoking. I provide two examples below [grammatical errors in

the original are not corrected.]:

"Truth is nothing. Because truth doesn't have a definition. People are different from each other in thoughts. So, people are different from each other in truth. Writing in newspaper is not all truth. And the judgments are not all truth. In short, truth is nothing."

"I think the truth is like a ghost. Everybody knows this word. But nobody can say clearly what this is. Each people has their own vague form of truths. Although the truth often helps people, it also hurts them. And the truth sometimes disappears. After all, the truth is a ghost."

Originality was there. But, it deserved some polish. That should be the main function of a university teacher. Whether one agrees with these views or not, I felt that as a teacher one has to guide these students in their self exploration of the society, world and universe.

What is good teaching? I particularly liked the definition of 'good teaching' as provided by Donald Rinsley [Science, August 27, 1971, v. 173, p. 768]. "A good teacher is a person who provides far more than textbooks or lectures; he [she] offers himself as a model for his [her] students' identification."

Providence had helped me to be familiar with three cultures; namely Sri Lanka (first 28 years), USA (6+ years) and Japan (23+ years). Having taught and researched at the Faculties of Science, Medicine and Agriculture in nine universities in the past, I look forward to my rejuvenation of commitment to the students of Gifu University. Bertrand Russell, the British polymath (a mathematician, philosopher, pedagogue, social activist and a Nobel literature prize laureate) is my intellectual idol. He was also a tri-linguist, adept in English, French and German. It is a pity that Japan hasn't developed an intellectual in the caliber of Bertrand Russell in the 20th century. My mission is to stimulate the younger students to aim for the highest goals reached by Russell and other scholars of his caliber.

I understand that each student who enters Gifu University is a special person, having distinct talent and skills. Like what the lyric of Shimakura Chiyoko's hit song '人生いろいろ 男もいろいろ女だっている' states. My work and hope is to polish these jewels to be productive to the society at large.

これからの英語教育

長尾 裕子先生

去年の10月から教養教育センターで英語のカリキュラムの改革などに携わりはじめてから3カ月余りが過ぎ、少しずつ今までに学んだことから私なりに将来への抱負を述べたいと思います。

現在、日本の大学生は1年入学前に英語学習で3つの段階を経てきます。第一段階は中学入学前(これは小学校での英語教育や子供の英語教室などを含む)、第二段階は中学3年間、第三段階は高校3年間(浪人をする場合はそれも含む)です。つまりみなさんは最低でも7から8年間は英語に接していることになるのです。

しかし、日本人の大学生のみなさんには、学んだ英語を最大限に利用し、将来にそなえて、さらにスキルアップをしようという意識が少ないようにみうけられます。つまり大学入学後は、英語が必修であるので単位さえ取得できればいいという意識が多くの学生にあり、達成感や満足などを求めたり、自分の英語力を向上させようという気持ちもあまりないままに1年を過ごしてしまう人が多いということなのです。

現在の共通教育の英語は、教養教育の一環として位置づけられており、その先の専門につながるような授業を行うことは義務付けられてはいません。しかし、私はそこに問題があるのではないかと考えます。大学入試という大役を果たしたみなさんが、4年間継続する意欲を持って語学に取り組むために以下のことを提案します。

1. 受験英語との決別
2. 英語への違った角度からのアプローチ
3. 全学共通から専門への橋渡し
4. 時代に即した教育的アプローチ

1と2では、受験という目標がないので、範囲のあるなかでの学習方法ではなく、多方面からの英語へのアプローチを試み、様々なスタイルで語学を習得する喜びを感じて欲しいと思います。

3が私が最も今の共通教育に欠けていると感じている点です。専門教育課程に入る前に、それぞれの専門で必要となる英語への導入部の役割を全学共通が果たせれば、学習意欲も増すのではないかと思います。

4は、ITの時代になってから特に言えることなのですが、世の中の変化も激しくなり、情報量も膨大に増え、過去の新情報がすぐに古くなり、語学教育(特に教科書)でもそういった現象への対応が急務です。そんな時代に生きるみなさんに合った教育を構築していくのも私たちの役目であり、授業をより魅力的なものにしていくことが私たち教師への課題だと考えています。

以上の点をふまえ、4年間の英語教育が、個々の点として存在するのではなく、一本の線(それも太い)として繋がれば岐阜大学の英語教育は飛躍が遂げられるのではないかと思います。私もその一端が担えるよう努力をしていこうと思っています。



講義中の長尾先生

編集後記



教養教育推進センター 執行部
(奥から小澤副センター長、
福士センター長、竹内副センター長)

今年の正月も箱根駅伝に釘付けとなった。体力そして精神力の限界ぎりぎりのところで闘いを繰り広げる筋書きのないドラマは、多くの人々に感動を与え、勇気を育む。駅伝の魅力は何といてもタスキリレーに象徴されるチームプレーだ。1秒遅れれば、後続のランナーが1秒を縮めるために苦しむことになる。音声としてはよく聞こえないが、監督と選手とのやりとりも興味深いに違いない。監督は1秒でも良い結果を引き出すためにいろいろと工夫して選手に語りかけているようだ。往路復路の選手は十人十色、それぞれの性格を知り尽くしての協働作業だ。周囲の声援も背中を押してくれる。大学も1年1年がリレーされていく。駅伝と違うのは卒業まで一人で走らなければならないことだ。目標から1秒遅れれば、その分は自分でカバーしなければならない。そして、私たちにできることはランナーに声援を送ること、そしてバトを引き出すための協働作業のように思われる。

編集責任・教養教育推進センター 副センター長 竹内 豊英

アンゲリア
àngǎrlǐà

「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。

何かと不安を抱える新入生の履修登録を支援すべく、学内から14名の有志がセンター学生相談員として登録し、良き先輩として活躍してくれました。学生相談員は、チューデント・アシスタント(SA)としてだけでなく、大学生基礎力調査の会場準備、Web履修登録の操作説明、全学共通教育事務室窓口での再々履修登録申請の受付・履修登録科目の削除の受付、TOEIC-IP会場準備等、アドミニストレイティブ・アシスタント(AA)的な役割も担いました。今回、学生相談員としての仕事を通じて感じたことを紹介していただきました。



教育学部国語教育講座2年 桑原 篠太郎

はじめに、私が学生相談員を経験して思ったことは、「良い経験になった」ということです。普段は、曇りガラスで仕切られて見ることでできない全学共通教育事務室の裏側を見ることができた、稀有な機会だったと思います。新入生に対する、履修説明といった業務や、新入生の不安に対して相談にのったりといった、責任ある業務をいくつもこなしてきました。中には、大変に感じるものもありましたが、周りの学生相談員や、事務の方々の多大なる支援のおかげで、とても楽しくこなしていくことができました。そのおかげで、この4月の時間の密度はとても濃く、充実したものでした。次に、この学生相談員という制度について思ったことです。

私が新入生のときにも、学生相談員の方々には大変お世話になりました。大学に入ったばかりで、まだ右も左もわからないうちに、ガイダンスで「web履修登録」や「AIMS-GIFU」などの説明を聞いても何かなにやらさっぱりわかりませんでした。自分の周りの数少ない友人(まだ、入学したてだったので)に聞いても、「よくわからん」と口をそろえるばかりで、先生に聞こうと思っても、入学当初はとても気難しい先生ばかりというイメージがあったため(月日がたつと、そのイメージの誤りに気づきましたが)、怖くて聞きにいけませんでした。そんなときに、相談にのってくれたのが学生相談員の方々でした。非常にわかりやすく、丁寧に応じていただき、当時の私は大変助かりました。こういった、自分の関係からも、学生が気軽に相談にのってくれる学生相談員は非常に意義あることだと思います。

最後に、新入生の皆さん(つまり、来年度には先輩と呼ばれる方々です)や、あるいは学生相談員を経験していない、現2・3年生の方々には、来年はぜひともやっていただきたいと思います。これだけ良い経験ができて、しかもお給料までいただける仕事は中々ありません。来年は、是非とも学生相談員に応募してみてください。



地域科学部地域文化学科4年 瓜野 早紀

履修相談員の仕事を通して、普段はあまり時間を共にすることのできなかった全学共通教育の事務の方々と一緒に働かせてもらう事ができ、全教事務室の方々から岐阜大学生のことを本当に大切に考えてくださることがわかりました。特に、履修相談員の私たちに、積極的に意見や改善点を求めてくださったり、新入生がよりわかりやすいように説明を工夫され、事務室に訪れる学生さんに対し丁寧に対応されている姿が印象的でした。そのような素敵な職員の方々と一緒に働かせていただく中で、学生がもっと大学をよくするために協力していかなければならないと思いました。学生と事務の方々と一緒に働くということは、事務の方々が学生の意見を知る機会となるだけではなく、学生が大学について改めて考え直すきっかけにもなりました。

また、新入生の方々に対応する際には、先輩としてのあるべき姿を意識し、言葉遣いや態度に気をつけ、丁寧に接することを心がけました。ガイダンスの際には、質問していただいたことに、自分が分かる限りの経験と情報で答えていきました。同じような内容の質問をされることが多かったのですが、そこは事務職員の方々との交流会で報告するという形で、新入生の意見を反映させるということができたと思います。また、再々履修登録のお手伝いの際には、対応に追われることも多かったのですが、忙しい中でも、一人一人の学生さんと向き合い、丁寧に対応するように心がけました。最後の履修相談員と事務の方々との交流会では、ほかの履修相談員の方々がどのような思いで仕事をしてきたのか、どのような改善点を見つけたのか、それに対するアイデアなどを聞き、話し合うことができたので、本当に有意義な時間が過ごせたと思いました。

この履修相談員を通して、日ごろから全共事務の方々が学生のことを大切に思って働いてくださっていることを実感しました。ありがとうございました。そして、私たち学生も主体的になって大学について考え、ともによりよい大学を創っていけるといいなと思いました。



東日本大震災で亡くなられた方々には改めて心より哀悼の意を表します。また、被害に遭われた多くの方々にはお見舞い申し上げます。そのような暗い雰囲気の中ではありましたが、岐阜大学では幸い入学式を予定通り実施することができ、希望に満ちあふれた新入生を迎えることができました。新入生の大学生活のスタートにあたり、今年も学内の先輩たちが、履修登録のサポートなどのために活躍してくれました。

医学部看護学科4年 丸本 麻貴実

私が1年生のころを思い出すと、入学時のガイダンスで授業案内を受け取り、自分で受けたい授業を十分な間もないうちに決めなければならませんでした。私は当時黒野寮に入居しており身近にたくさん先輩方がいたため、授業に関して様々なことを教えてもらうことができました。しかし、そのような先輩方のアドバイスがなければ、私はすごく不安を抱えたまま大学生活のスタートを切っていたらと思います。そこで私は今回、新入生が履修に関して分からないことがあれば、経験者の立場からアドバイスなどを行うことのできる学生相談員となることを希望しました。実際には、私は相談員として履修の再々申請、取り消し期間の窓口対応のみにとどまり、授業選択に関するアドバイス等は出来なかったのが残念でした。

授業の取り消し理由として多かったのが、「授業単位数が上限に達したため」でした。その中には抽選が行われた科目もあり、他に履修希望者がいることを考えると履修登録に際しては十分に注意して行われるべきであると感じました。一方、取り消し理由の中には「内容が自分の希望していたものとは違った」といったものもありました。数多くある授業の中で自分の学びたい授業を見つけることは容易ではありません。しかし、専門科目の基盤となる全学共通科目では広い視野を持って学びを深めることができれば、大変有意義なことだと思います。

最後に私が述べたいのは、全学共通科目は決して「楽な授業だから」という理由で選択して欲しくないということです。私はアメリカに交換留学した経験を持ちますが、もっと日本人大学生は学びに対して積極的に主体的であるべきだと思います。先生は給料をもらって授業をし、生徒は授業料を払って授業を受けています。したがって、先生方は学生に対し意義ある授業を展開すべきであるし、学生はその道の専門家である先生方の授業から多くを学ぶ権利があります。大学教育のはじめの一歩として、全学共通科目受講の意味を改めて各々が自覚し前向きに取り組む姿勢が学生に求められている、と私は考えます。



工学部生命工学科3年 水谷 洵紀

教養教育推進センター長である福士先生の講義の中で学生相談員を募集していると聞いたのをきっかけに今回応募させていただきました。福士先生には1年生のときにも全共でお世話になっていて、そのとき先生の人柄に惹かれてもっと先生と関わりたいと思っていました。大学ではなかなか先生と直接話すこともありませんし、同じ学科の先生ならまだしも、他学部他学科の先生と関わることもほとんどありません。そういう意味でも今回は良い機会だと思いました。

学生相談員の仲間はみんな有志で集まっていて、もっと全学共通教育をよりよくしていきたいという思いに満ち溢れていて圧倒されました。他学部の人や他学年の人ともたくさんいてこの相談員を通して人脈が広がったのはよかったです。全共の事務室の人ともこの機会を逃したら一生関わることもなかつたことなのでしょう。そんな人たちと短い間で一緒に行動する良い機会を得ました。岐阜大学を良くしていきたいという思いはみんな同じでした。

ガイダンスの補助をしていて感じたのは、新入生のなかにもあまり真剣にガイダンスを聞いていない子もいるということです。疲れがたまっているのは分かりますが、それでもガイダンスの内容に省けるところもありませんし、先生たちの熱い気持ちをなんとか新入生に伝えたいと思いました。

それでもよかったです。それは外国語希望調査のときです。出会ったばかりでなかなか友達ができていない新入生には学生相談員の存在は大きかったと思います。生徒の立場から感じた意見をくださいと聞かれることも多く、十分に役割は果たせたと思います。

学生相談員を経験して大切だと感じたのは、人とのつながりです。世の中にはまだまだ知らないおもしろい人がいっぱいいます。そんな人たちに積極的に関わってく姿勢が大事だと思います。そんな機会のひとつが学生相談員だと思います。僕たちの姿を見て自分もやってみたいと思える人が一人でもいてくれたらうれしいです。



応用生物科学部食品生命科学課程2年 伊藤 千弘

一番印象に残ったのは全学共通事務室の方々から学生のことを本当に親身になって考えている姿でした。1・2年の全共を受けていた頃、学務に寄ること自体があまりありませんでしたが、今回事務室の中に入ると学生が大学生活を少しでも困らないように学生相談員の配置や新たな履修取り消し期間の提案など細やかなところまで気を配っていることを知りました。そのような優しさに以前は気づけなかったことを後悔しつつも、慣れない大学生活のサポート体制に感動しました。また、事務職員側から学生相談員に意見を所々聞いていただけのような雰囲気を作ってくれたおかげで学生側としては事務職員の方々や先生の予想外な意見や教育現場の現状を交換することができ、とても楽しかったです。

ガイダンスやWeb履修に参加して、私の入学した時に比べると年々学生が相談しやすい雰囲気だと感じました。しかし、一方で私が1年の時疑問に思った内容が今回も新入生から質問されたため、これからの対処の仕方を事務職員と学生と一緒に考えなければならぬと思いました。意外だと思ったのは相談場所や学生相談員の存在を知らなかったという新入生が多かったことです。実際手伝いをしている側としては盲点だと思いました。4月下旬に行った事務職員と学生の懇談会では改善する点だけでなく、このような今の良い受け入れ態勢をどうやって新入生に伝えるかについても議題に挙がりました。この議題は運営する方ではなかなか気付きにくく、現在の学生がどのような場所をよく通り、どこが目立つか今までの大学生活を思い返して色々提案ができたのはよかったです。

今まで先生や事務室の方々がやっていたことを学生が行うのは今後も取り入れてほしいです。大学は高校とは違って学生が自立しなければならない場所だと思います。ですから実際担当して難しさや現状を直接知り、ではどんな工夫や対処をするか先生に助言をもらいつつ学生が実行する機会はいろんな学生に経験していただくことを希望します。



このような学生による学生のための活動は有効に機能しており、将来もっと拡充することを祈っています。学生と教職員の協働による教育研究のさらなる改善発展を図ることができることを願っています。

編集責任・教養教育推進センター 副センター長 竹内 豊英



「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。

基盤的能力と専門的能力を培って楽しい大学生活を!

教学担当理事・副学長 岡野幸雄

去る3月11日の東日本大震災では多くの方々犠牲になられ、被災された方々には改めてお見舞い申し上げます。日本はその後原発問題も加わり、大変な局面を迎えましたが、この災難から立ち上がる必要があります。

実は、大学教育も難しい時期に来ていると思います。グローバル化する知識基盤社会においては、国際的通用性を備えた人材の育成が必要です。少子化による人口減少が進むなかで、18歳人口の半数が大学へ進学するような高等教育のユニバーサル化もおこっています。イノベーション(革新)を創出できる優れた人材を高等教育で育成する必要があり、そのような優れた人材を社会に送り出すために、大学教育の質の保証も問われるようになりました。学問の基本的な知識を獲得するだけでなく、知識の活用能力や創造性、生涯を通じて学び続ける基礎的な能力を培うことが重視されています。このような力は、文部科学省では学士力と呼ばれ、経済産業省では社会人基礎力と呼ばれて、その育成が社会的にも要請されています。

岐阜大学は、「学び、究め、貢献する」地域に根ざした大学を目指して、人材育成を最優先課題としています。このような理念のもとに、平成22~27年度の法人化第2期中期目標に基盤的能力や専門的能力を明らかにしてこのような力を育成していくことを掲げています。

基盤的能力は、「考える力」「伝える力」「進める力」の3つの力からなり、それぞれをさらに3つに分けた9つの要素からなります。「考える力」は総合的判断力であり、課題発見力、創造的思考力、論理的思考力に分けられます。「伝える力」はコミュニケーション力であり、発信力、傾聴力、状況把握力に分けられます。「進める力」は自立的行動力であり、実行力、計画力、管理力からなります。これら3つの力を培うことにより、各学部の教育目標に掲げている「豊かな人間性」の形成が促進されることを期待しています。

しかし、基盤的能力を培うための特別な授業があるわけではありません。日頃のいろいろな正課の授業の中や、サークルなど課外活動でこれらの力を養うことができます。卒業までに基盤的能力を培い、専門分野の知識・技能を蓄えて専門的能力も養い、岐阜大学の卒業生として立派に巣立って行って下さい。卒業後に社会の荒波に揉まれても、これらの力を蓄えた皆さんはきっと逞しく生きて行くことができるでしょう。

岐阜大学での4年間あるいは6年間の学生生活があなたの人生でもっとも有意義な一時期であったと言えるように、岐阜大学を卒業できてよかったと言えるように、学生生活を楽しんで下さい。



知ること、考えること、できること

教育学部副学部長 原田憲一

大学は高度な専門的能力を持って社会で活躍できる人材を養成するところです。少し堅苦しく感じますが、学生から見れば、やはり大学は学ぶところです。学ぶ内容は体系化された学問、知識や技術です。数学や歴史或いはそれぞれの専門的な枠組みのなかで体系化され社会で認められたものです。だから社会で共有でき、それを行使することによって社会に還元できることに繋がります。

知らないことを知るとはとても楽しいことです。子どもが未知の世界への冒険に憧れることと同じで、とても興味深いことです。時空を超えた人類が残し社会が承認している学問を知ること、本を読むこと、人の話を聞くこと、人と一緒に活動することです。知することは重要で、文献や資料、現実の社会や最近のインターネット等もあり、出典は豊かです。文献をそのまま写したり引用したりする人もいますが、その知識がそのまま活用できるのかと疑問が残ります。自分自身で考えず納得していないことを人に話しても、とてもその人自身を信用することは出来ません。

思うこと、考えることはとても重要です。なるほどそうだったのかと納得すること、どうしてそうなのかと疑問に思うこと、さらに予想やひらめき等、自分で考えることはとても重要です。自分自身で確かめたり、応用したりして本当のことと確信します。その欲求の充足はとても愉快的なことです。しかし自分で考えると言っても、知識や定理を知らないで、独りよがりでも社会に通用するとは思えません。

そういうことが面倒で苦しく感じたり、目先のちょっとした努力を惜しみがちになったりすることもあります。それを容易にする方法があります。それは言葉や概念という必要な道具をしっかりと持つことです。もう一つは、それぞれの関心や内容が、我々人間や世界の中でどのような位置に存在し、どのような関係になっているかを知ることです。それらを持っているとすごく容易になります。

教育には人間性と有能性を高めることだわれています。豊かな人間性でも、何もできなければ社会に出てもあまり役に立ちません。反対に有能であっても、周りの人たちに受け入れられないような人間性では、仲間として一緒に活動することができません。

本学では基盤的能力と専門的能力という枠組みで考えています。基盤的能力は教養で、専門的能力が学部の専門ということではありません。基盤的能力は人間が備えていたい基本的な力を指しています。それだけを取り出して発揮するのは難しく、内容がなければ発現できないのが現実です。その基盤的能力をもとに専門的な知識や技能で発揮できるようになりたいものです。

編集後記

今年は夏休みの間に台風が日本に大きな影響を与えました。なかでも12号と15号は日本列島に大きな爪痕を残して去って行ったのは記憶に新しいところです。二つの台風の特徴は発生してから消滅するまでの寿命が長かったこと、9月に入っても夏台風特有の迷走ぶりがきわめて顕著であったことだと思います。これは、日本近海の水温や偏西風の影響が大きかったことが一因であると報道されています。私たちはこのことをどのように考え、この経験を今後どのように伝え、活かしていくことができるのか、自然からいただいた課題を享受したいものです。今号は、全学共通教育に大所高所から支援いただいているお二人の先生から学生の皆さんにメッセージ(基盤的能力・専門的能力とは何か)をいただきました。何度も読んで味わってください。 教養教育推進センター副センター長 竹内豊英